

# 道 徒 の 聖

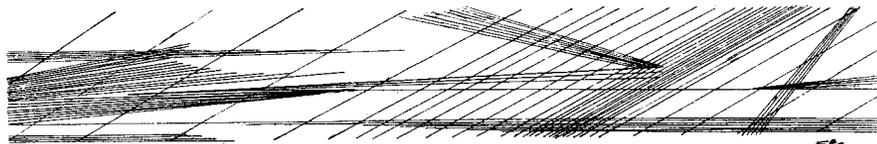
（一九五八年三月十七日第三種郵便物認可）  
（毎月一回一日発行）  
第一九五八年三月十七日第三種郵便物認可  
第六号一九六一年六月一日発行



1961

6月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



も く じ

予言者のことば……心の 錨……………大管長 デビッド・O・マッケイ…二九八

伝道部長メッセージ……偉大なるモルモン宣教師……………ポール・C・アンドラス…三〇一

末日聖徒イエス・キリスト教会の墓苑について……………三〇八

モルモンの教義……エライヤス・エライジャ・エリヤ……………佐藤 竜 猪…三〇九

はじめて霊の子がさずかって……………福田 八重子…三一四

モルモン家庭訪問……鈴木家を訪ねて……………三一六

ヤンガー・ジェネレーション

ちがった道にさまよう……………マリオン・D・ハンクス…三二〇

私の叫び……………四枚田 民 子…三二〇

祈 その1……………鎌 倉 弘 子…三二三

その2……………宮 城 光 子…三二四

私は立派なモルモンになりたい……………若 松 道 範…三二四

私の証詞……………柳 田 喬 夫…三二五

質問への答……安息日をいかにすごすべきか……………ジョセフ・フイールデイグ・スミス…三二六

実生活の教訓……………マリオン・D・ハンクス…三三一

二分半の話より……………谷 保 良 子…三三三

聖徒の道研究会……………名古屋支部…三三四

六月地方部大会予告……………三三七

アロン神権……………ブランチティ・チング・レックス…三三九

メルケゼデク神権……第一長老定員会の計画……………三四一

日曜学校ガイド(七月用)……………三四二

子供日曜学校ガイド(七月用)……………三四七

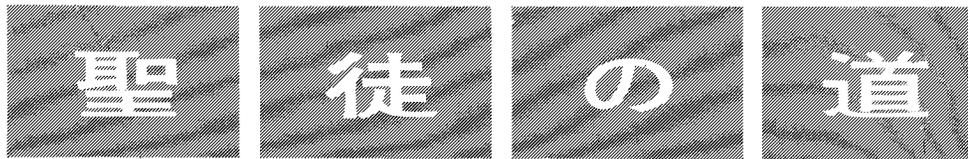
M I A リーダー(七月用)……………三四九

扶 助 協 会……………三五三

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史科……………ジョセフ・フイールデイグ・スミス…三五四

伝道本部だより……………三五九

1961年6月号





大管長 デビド・O・マッケイ

## 心の錨

大管長 デビッド・O・マッケイ

もう何年も前のことであるが、私たちの乗って行った立派な汽船「マラマ号」はラロトンガ島のはるか沖合に錨をおろしたので、上陸したい乗客たちは船着場まではしげに乗って行かねばならなかった。なぜもっと岸に船をよせないのかと乗客たちがたずねたとき、オールドウェル船長はだまって岸の方を指さした。そこには暗礁にのり上げた船の巨大な肋材を白波が噛んでいた。危険な港の底にひそむさんご礁に近よりすぎた船の残骸は、あまりにもきびしいそして厳肅な事実を私たちに思い起させた。

数年前に、その難破船の船長はその港に錨をおろした。いつもの状態なら万事安全で都合よく行ったはずであったが、その時思いがけなく突風が起った。船長は船を港外に避難させようと全力をつくしたにもかかわらず、ついに愛船を岸礁に乗り上げさせる始末になってしまった。しかし、私たちの乗って行った汽船「マラマ号」の船長は、ただ単に錨をおろしたというだけではなく、充分安全なところに錨をおろしたのであった。

人が心の錨をそのようにおろすならば立派なものである。それは真理に心の錨をおろすからである。その場合に人生はまことによるこびとなる。あらゆる人生につきものである試練と艱難がおそって来ようとも、このような人は心によりどころのない人の知らないなぐさめをもっている。激情のあらしや疑惑の暴風雨は、心によりどころをもっていない人を失望の暗礁に難破させるかも知れない。しかし、激情のあらしや疑惑の暴風雨がいかに荒れ狂っても、それらは信仰のある人々をいかんともすることができない。

今日世人が最も必要とするのは信仰である。しかも天に生きた神がましますこと、この神は單なる力ではなくて、世人の祈りを聞いて答えたもう父なる神、われらの主なる救い主、イエス・キリストの父なる神であることを信ずる信仰が最も必要である。

神を信ずる信仰は、もともと純粹に個人の問題である。それはあなた自身の信仰でなくてはならない。同時に、私自身の信仰でなくてはならない。また本当の信仰であるためには、知と情とから出て来なくてはならない。

信仰の上につき心のかげをおろすということは、すべて誠実な人々が心に抱いているまじめな願いであるが、「どのようにして」という大きな質問はいつも声高く答えを要求している。しかし、幸いにも聖典の中に一つの答えが示してある。モルモン經の中でイテルは「すべて神を信ずる者はこの世よりも勝っている世、すなわち神の右手の場所を少しも疑わずに望むことができ、このような望みは信仰から生じて人の心のかげになるものであるから、このかげのために人はしっかりとびくともせぬようになり、いつも善い行いをして神を崇めるようになることができる」(イテル書十二〇四)とはっきり言っている。

これは本当のことであるから、たしかに私たちは心の切な願いに對する答えを見出している。何とならば、神が近くにましますと感ずること、私たちの父なる神としてゆるぎのない確信を以て神を信ずること、神は神の子らのために「救いの計画」を有ちたもうことを知ることなどは、人類が知っている最もたしかなまた最も安全な心のかげであるからである。しかしここでイテルが「神を信ずる者は(すなわち神を信仰する者は)」と言っていることに注目したまえ。「信用すること」と「信仰すること」の間には違いがある。私が長老の使用する「レッスンの手引き」に一度書いたことがあるように、私たちはある人物を信仰していなくても、その人物の言うことを信用することができる。しかし、もしも私たちがある人物を信仰しているならば、それは私たちがその人物の人格をほめたたえ、その立派な模範にならいたいという意味を含んでいる。当然、私たちは、自分の理想の中に見るいろいろの美德を身につけるのである。

さて、このことを考えに置いて、私たちはほんとうにイエス・キリストを信仰しているかどうか、心からまじめに自分自身に問うてみようではないか。もしも私たちがほんとうにイエス・キリストを信仰しているならば、私たちはたしかに、「救い主」の男らしさに劣らぬ男らしさをもちたい、その優しさとおなじ優しさを育て上げたい、その純まことさとおなじ純まことさがもちたい、「救い主」が人を許したもうたとおなじように人を許したい、またその罪のない完全な生活を、いつも私たちをみちびく明星にしたい、私たちのただ一つの望み、私たちの切なる願いにしたいと言わざるを得ないにちがいない。

神を信ずる信仰、世の救い主であるイエス・キリストを信ずる信仰、一生を通ずるみちびきとしてイエス・キリストの福音を信ずる信仰、心の底からわいて出る故に真正である信仰、気高いそして神のような行いを起させる信仰、このような信仰こそびくともしい、無限に大きい心の錨いかりである。

このような信仰こそ、主の使徒たちに靈氣を吹きこんだ信仰である。このような信仰こそ、人々にいやしめられ迫害せられた初期のクリスチャンたちに、殉教の時にすら力と平安とを与えた信仰である。このような信仰こそ、少年予言者ジョセフ・スミスに天が開かれた信仰である。また、このような信仰こそ、末日聖徒イエス・キリスト教会の指導者たちの間に見られる靈性を高める力である。

このような信仰をもつ者はみな、たとえ暴風雨あらしの吹きすさぶ世の中で木の葉のように翻弄されようとも、最も安全なそして最もしっかりとした心の錨をおろしているのである。それを得んことを祈れ。それを得るために努力せよ。この心の錨がなかったなら救いはない。

誰もみなエマーソンと共に「神よ、みこころをいつでもよるこんで行うすなおな心のそなえをさせたまえ」と祈るのはよいことである。それであるから、世の中をもっとよくする責任はあなたのものである。あなたばかりでなく、イエス・キリストの御名を口にすると十数億のクリスチャンたちの責任である。

## 偉大なるモルモン宣教師たち

ポール・C・アンドラス



もしも宣教師がなかったらどうでしょう。か、日本にも韓国にも沖繩にも今日一人の教会員さえいないでしょう。実際、宣教師がなかったら全世界にあるモルモン教会に今日一人の教会員さえ見られないであまりよろう。この事実はこれまであまりに多くの教会員が、あまりにしばしば重くみないで過ごしていることでありますから、今月は北部極東伝道部の全教会員の注意をこのことに向けたいと思います。

ちょっと落ちついて考えてみるならば、私たち一人一人がこの教会の会員になったのは誰の力によりますか、また教会員になったために与えられるすべての祝福は誰の力によりますか、みんな宣教師たちのおかげによるものであることがすぐにはっきりとわかります。ヒーバリー・J・グラント長老（後の大管長）と長老と共に働く三人の宣教師とが、千九百一年に日本へ着いたとき、日本中に住むすべての日本人の中に、一人の教会員さえありませんでした。これらの最初の

宣教師とこれにつづいて日本へ来た多くの宣教師たちは、文字通りに真の福音の喜びのたよりを日本人の人々のところへもって来ました。日本伝道部は一時閉鎖されましたが、第二次世界大戦が終ると再び宣教師が日本へ派遣され、また多くの宣教師が千九百五十六年の四月に歴史上始めて韓国と沖繩とへ派遣されました。これらの国々に於て、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である米国人たちもいくらかの人々を改宗させて教会員にしましたが、日本韓国沖繩にある各地方の教会員の大部分は、上に述べた宣教師たちの力によって教会員になったのであります。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である米国人人によって教会員になったと言いますが、それでもやはり宣教師の力で教会員になったのであります、というのは、その軍人たちが教会員になったのも宣教師の力によるからであります。これと同じように、直接宣教師によって導かれなくて教会員になった人々もなお一人のこらさず、その教会員になったのは宣教師の力によるのであります。というのは、その人の先祖までさかのぼると、どこかで誰かが宣教師に直接働きかけられた結果教会員になっているからであります。あなたがこの教会の教会員になったのは宣教師のおかげであります。私はこのことをいくら強調しても強調しすぎることはないと思っております。

モルモンの宣教師たちは、これまでいつも多大のぎせい

を自らはらって福音を教えに出て行っております。たとえは、千八百三十九年には十二使徒定員会の全員が英国へ宣教師となつて行くよう召しを受けました。この人々はイリノイ州のノーヴーから英国へ出発しましたが、当時教会はノーヴー市をちようど建てていたところでありました。「末日聖徒イエス・キリスト教会大歴史」の中には、この人々の出発について次のような記事が見えております。

「ウイルフォード・ウッドラフとジョン・テイラーとは、十二使徒定員会の中から最初に召されて、ノーヴーから英国へ向けて出発した長老たちであった。ウッドラフ長老は当時モントローズに住んでいたから、ブリガム・ヤング長老がカヌーに乗せ自ら漕いでミシシッピー川をわたした。岸につくと、ウッドラフ長老は郵便局の近くにあった底革かぶ用の革かわの上に横になって休息した（彼は当時病気のため衰弱していた）。その時予言者がそこへやってきて「おやウッドラフ兄弟、もう宣教師の働きをするために出発したのかい」と彼に言った。するとウッドラフ長老はこれに答えて「私は宣教師になるよりもむしろ解剖室に置かれるような気がしていますし、またそうなりそうです」と言った。すると予言者は彼に言った「君は何のためにそう言ったのか」、「すぐに起きて行きたまえ。万事も都合にゆくにちがいない」と。

それから間もなくウッドラフ長老はジョン・テイラー長

老と一しょになり、二人つれ立って旅路につきました。その途中、二人はパーレー・P・プラット長老の側を通りすぎましたが、その時彼ははだして何もかぶらずシャツ一枚になって、家を建てるための丸太を切っていました。彼は自分の側を通りすぎる兄弟たちに別れのあいさつを送り、せんべつとして財布をおくりましたが、その中には一文も入っていませんでした（金がなかったのです）。すると、そのすぐ近くで、プラット長老と同じようにシャツ一枚で働いていたヒーバー・C・キンボール長老がやってきて「パーレー兄弟が君たちに今財布をおくったから、僕は僕のもっている一ドルをその中へ入れてあげよう」と言いました。そして四人は互いに祝福をかわした末、外国でまた会おうと再会を約して別れたのであります。

八月の二十九日には、パーレー・P・プラット長老とその弟のオルソン長老とが自分たちの馬車に乗り、ノーヴーに別れを告げて英国へ向いました。

また九月の十四日には、ブリガム・ヤング長老がモントローズにある自宅から英国へ出立しました。ヤング長老の出发はその病気のためしばらく遅れていましたが、出発の時になつてもまだ弱っていたために、自宅からたった百五十メートルばかりの所にある渡し場まで人の手を借りて行かねばならないほどでした。ヤング長老の子供たちは当時みな病気にかかつており、妻は生後わずかに十日の赤児をか

かえてのこらなければなりませんでした。しかも一家は當時は赤貧洗うが如き有様でありました、というのは、ミズーリ州の暴徒たちが一家の全財産を奪って行ってしまったからであります。ミシシッピー川を渡ってノーヴーの岸へ着きますと、イズラエル・バーロー兄弟がヤング長老を自分の鞍くらの後にのせ、馬でヒーバー・C・キンボール兄弟の家まで連れて行きました。そこまで来るとヤング長老は疲労の極に達し、数日の間滞在して妻の看護を受けなくてはなりませんでした。ヤング長老の妻は、夫がキンボール兄弟の家まで来て一歩も動けなくなったことを聞いて、看護をするためにモントローズからミシシッピー川をわたってこちらへ来たのであります。

しかしながら、わずか四日後の九月十八日に、ヤング長老はヒーバー・C・キンボール兄弟とつれ立って再び出発しました。このときチャールス・ハッバートという名前の兄弟が、一少年に数頭立ての馬車の手綱てなづなをとらせて遣わし、一日の旅程を車で送らせました。キンボール長老があとにのこした妻は「おこり」にかかって悪寒にふるえて居り、のこる子供たちもみな病気にかかっていました。キンボール長老自身さえも、このとき兄弟たちの手を借りてようやく車にのぼったほど弱っておりました。このときの有様を回顧してキンボール長老は「このとき私が、このような状態で、いわば見殺しのような状態で家族をのこして行

くのかと思うと気が遠くなる思いでした。私はとても堪えきれないかのように感じました」と後になってから言いました。

馭者がちようど馬を走らせ始めたとき「止めよ」とキンボール長老が言いました「ブリガム兄弟よ、ずいぶんつらいけど、立ちあがって彼らにばんぎいを三唱してやろうよ」。ブリガム・ヤング長老はやつとの思いで立ち上り、キンボール長老と一しよに帽子をふって、「イスラエル万歳、万歳、万歳」と三唱しました。ヤング姉妹とキンボール姉妹とはこの声を聞いて、とくにキンボール姉妹はやつとの思いで、戸口のところまで出てきました。そして、万歳の声に和して別れの手を振ったのであります。これを見て二人の使徒は、財布も旅のふくろも持たずに、英国指して伝道の旅をつづけに行きました。

「十二使徒」の一人であったジョージ・A・スミス長老と、「七十人」であったルーベン・ヘッドロックおよびテオドーア・ターレー両長老との出発には、これに劣らず目をそばだたせるものがありました。当時三人とも実際「おこり」のために倒れ、非常に健康が衰えておりました。そして、まだノーヴーの町が見えているうちに彼らの乗った馬車が転覆して、三人とも川の土堤になげ出されました。このとき、スミス長老とターレー長老の二人は起き上ることさえできませんでした。それは受けた負傷のためではな

くて、病氣のために弱っていたからでありました。のころヘッドロック長老が二人を馬車の中に助けあげ、このようにして旅をつづけてゆきました。それから遠くも行かないうちに、三人が数人の紳士に出逢いましたところ、彼らは馬車をとめて馬を馱おましている人に言いました「あなたがたは、どここの墓場を荒らしてこられたんですか」と。これは英国へ行く途中の長老たちの姿がまるで妖怪そっくりであったので口から出たのであります。

このように貧しい上に病氣にかかり、旅のふくろも財布ももたず、彼らの家族に僅かばかりの生活の楽しみさえも味わせず、ただただ彼らと同じように貧しい人々のもっている確信、すなわち自分たちに必要なものは必ず与えられるという確信だけをもって、「十二使徒」たちは英国に住む文化の高い人々へ福音を宣べ伝えるために英国へ向ったのであります。

この人々の耳の中には「われよりも父または母を愛する者は、われにふさわしからず。われよりも家または国、妻または子らを愛する者はわれにふさわしからず」(マタイ伝十〇三十七頁参照)とお言いになったイエスのことばがいつも鳴りひびいておりました。またこの人々は「神の国のために、あるいは家、あるいは妻、あるいは兄弟、あるいは両親、あるいは子をすつる者は、誰にても今の時に数倍を受け、また後の世にて永遠の生命を受けぬはなし」(ルカ伝十八〇二十九—三十)という約束を受けておりま

した。

それ以来、一般に事情はよくなってきておりますが、モルモンの宣教師たちは今でもまだ多大のぎせいを払って世の中へ出て行っております。ただ今、八千人以上に及ぶ専任宣教師が出て行って福音を宣べ伝えていますが、そのうちの一人たりとも教会から金品を支給されてはおりません。宣教師の一人一人は誰かが財政上のぎせいを払うことによって支えられております。宣教師の中には何年も何年も一生けんめい働いて得た金から貯金をして、その金で自給をしている者があります。また中には、両親や友人や神権定員会からの送金によって伝道生活を支えている者もあります。そこで、私がここで強く言いたいのはこれらの宣教師の伝道生活を支えている人々は必ずしも金持ちではなくて、金持ちよりもむしろ貧しい人々の方が多いということであります。今日、伝道部へ宣教師になって行っている息子たちを扶養するために、長い時間あきあきするような仕事に従っている寡婦の人々があります。また宣教師たちの伝道生活を支えるために、普通よりもつましい食事をし、服も新調せずに古いのがまんをしている何万という人々があります。一方宣教師たちはと言えば、その仕事をすて、学業をすて、結婚の計画をすて、自分たちのあらゆる時間と才能とを主のみわざをするために捧げております。本当に、今日でさえモルモンの宣教師は昔の通り多大のぎせいを払って福音を宣べ伝えるために出て行っております。

ます。それでありますから、今度モルモンの宣教師たちに逢ったなら、この事実を思い起していただきたいと思ひます。

モルモンの宣教師たちは、広い経験をもっているために、またとくべつな神学教育を受けているために選ばれるのではありません。実際のところ、モルモンの宣教師たちは非常に若く、非常に経験に乏しくまた何の学位ももっておりません。それにもかかわらず、過去百三十一年の間これらの若い、経験に乏しい、また特別な教育を受けていない宣教師たちは、驚ろくべき速さで世界中に神のみ国を着々と建設しております。七十人最高評議員会のJ・ゴルデン・キンボール長老は「わが教会が神の真の教会であるということを証明する最も大きな証拠の一つを挙げれば、これまで多くの宣教師が百年以上にわたって世の中へ出て行っているけれども、まだわが教会をつぶしてしまつてはいないということである」とよく言われました。これらの若い、経験に乏しい、とくべつの教育のない宣教師たちの挙げた業績は一つの奇蹟であります。それは何によつて説明されるでありましょうか。それはJ・ゴルデン・キンボール長老の言葉にある通り、わが教会が神の真の教会であるからであります。主は親しく次のように仰せになりました。

「すなわち世の弱き者たち出で来り、人その同胞を譲りまた肉の権力により頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世

の救い主の名によりて語らんため、信仰もまた世に高まり、わが永遠の誓約は確立せられ、完全なるわが福音、弱き者たち單純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられたためなり」と

(「教義と聖約」一〇九—一二三)。

モルモンの宣教師たちは今日この予言を事実として現わしております。

今私はこの伝道部に属する会員の一人のこらずに声を大にして叫び、この宣教師たちを敬愛し助けるようにねがっております。この宣教師たちはたとえ年が若く経験に乏しくまたとくべつな教育を受けていなくても、彼らは主に仕える信仰と資格と喜んで働く精神があるために、大管長会によつて召しを受けた神の僕であります。この宣教師たちはこの伝道部に属する国々の言葉と習慣とをおぼえるに當つてあなたがたの助けを要します。彼らは福音を教えるべき求道者を見つけるに當つてあなたがたの協力を要します。彼らはホームシックと意気の沮喪にうちかつ助けを与えるあなたとの愛と親切とを要します。彼らは、あなたが協力一致して彼らの働らきを支持するということを知る必要があります。私はこの伝道部に属する会員の一人のこらずに、これらの宣教師たちに大きな恩義を受けていることに気づいていただき、いつも宣教師たちを支持し力づけはげました助けを与えることによつてその恩義の一部を返して下さるやうにねがう次第であります。

美しい丘の公園墓地

# 武蔵野霊園





わが国では墓地はたいいてい寺の管理の下にありますから、仏教以外の宗教でその宗派が自己の墓地をもっている場合、もしくは個人が自己の墓地をもっている場合のほか、たいいていの人は墓地の管理者である寺の住職から「火葬許可書」、「埋葬許可書」に承認の印をもらわないと火葬にすることも土葬にすることもできません。自分がその寺の宗旨を奉じているときには何も問題はありませんが、改宗をして別の宗教または別の宗派の信者になった場合に、先祖からの墓地へ自分または家族の者の遺体を葬ろうとすると問題が起ります。この墓地問題は意外に深刻な問題であって、仏教からキリスト教へ改宗をしたけれども、埋葬を許してもらえないので臨終の際に再改宗をして葬ってもらったとか、再改宗もできない埋葬もできないというジレンマに陥った末、山林に遺体を埋めて刑事事件に問われたというような悲劇が起っております。その一方、寺の管理権を無視して住職や信者の反対を強引に押し切って埋葬して行く人たちもある状態であります。このように寺の側から見た異教徒や宗派のちがう人の埋葬をめぐるトラブルが全国的に多く起っており、最近では東京都にある真言宗の一寺院が厚生大臣

## 末日聖徒イエス・キリスト教会 の墓苑について

を相手どって訴訟を起しておりますが、それは「法令解釈について厚生省通達の取り消しを求める訴え」で、その趣旨とするところは昨年の三月に厚生省が全国に出した「宗教団体の墓地に、他の宗教の信者が埋葬を求めたとき、宗旨が違うという理由だけでは埋葬を拒否することはできない」という通達は国民の宗教感情を無視し、むかしからの慣習をふみにじる不当なものであるから取り消してほしい、というものであります。

これに対して、厚生省側は反対の意を表わしてこの訴えの却下を裁判所に求めておりますが、その一方仏教各派で組織されております全日本仏教会は墓地対策を設けて、国会に対して墓地埋葬等に関する法律一部改正に対する請願をしております。その要旨とするところは「墓地埋葬等に関する法律、第十三条、納骨堂または火葬場の管理者は、埋葬、埋蔵、収蔵または火葬の求めを受けたときは、正当の理由がなければこれを拒んではならない」の次に「但し、宗教団体の経営する墓地及び納骨堂については、当該宗教団体の慣行が尊重せられる」を加えるように要望する、というのであります。これによれば、改宗してクリスチャンになった人が寺の経営す

る墓地に埋葬するときにはその寺の慣行に従うことになりませう。

末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部長は、早くからこの問題の重要性に着目してその解決に努力しておられましたが、たまたま東京都の都市圏計画の推進にともなうて、都内に散在する墓地の撤去が実行されようとするとき、埼玉県入間郡毛呂山町長瀬に「武蔵野霊園」が設置されることをキリスト教連合会を通じて知りました。

そして大管長会に手紙を送って事情の説明をすると共に、教会が自己の墓地をもつこと

がわが国においては是非必要であることを力説してくださいましたが、昨年六月に十二使徒会補助のヒンクレー長老が極東伝道部長のため東京においてになりましたとき、同長老を毛呂山町長瀬の現地に案内して視察を受けることができました。その結果同長老の推薦による大管長会の絶大な理解と援助により、わが教会は「武蔵野霊園」の中に二千坪の墓地を設定することができ、その永代使用権に関する法律上の手続さも完了しました。これはわが教会にとって画期的のできごとであって、福音伝道の大きな礎石がもう一つ置かれたのであります。

埼玉県入間郡毛呂山町長瀬の里は、東京池袋駅（東上線）から電車約一時間半で達せられるところとあり、西は秩父の連山を負い北は遙かに日光男体山をのぞみ見る風光明媚の地であります。ここに私たち教会の兄弟姉妹たちがすでに世を去った家族のために、この世の争いから免かれて静かに葬りを行うことができるのは、ほんとうに大きな祝福ではありませんか。

大管長会の方々、十二使徒会補助ヒンクレー長老、アンドラス伝道部長に心から感謝を捧げましょう。

## 「エライヤス・エライジャ・エリヤ」(二十五)

佐藤 龍 猪

「この後よりエライヤス現われ、アブラハムの福音の神権の鍵を委して  
言えるよう……」

「すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん」

「確かに、エリヤが来て、万事を元どおりに改めるであらう」

「教義と聖約」百十〇十五

「マタイ伝」十七〇〇十一

### 一、アブラハムの時代の予言者

エライヤス「Eliasi」

「神が聖なる予言者たちの口を通して、昔から予言しておられた万物更新（よるすのもの）の回復」の「御計画（使徒行伝三二〇二十一参照）の一環として、アブラハムの時代に住んでいたエライヤスという名前の予言者が、千八百三十六年四月の三日オハイオ州カートランドの神殿内で予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人に現われ、「アブラハムの福音の神権の時代」を委した。「教義と聖約」第百十章十

二節には「この後よりエライヤス現われ、アブラハムの福音の神権の時代を委して言えるよう、われらとわれらの子孫によりてすべてわれらの後の代の人々祝福を受くべし」と誌してある。

ここに言っている「アブラハムの福音」とは何であるかというに、それはアブラハムに委託された権能、誓約と祝福、「最高の救い」を告げる言葉である。またこれは何であるかというに、アブラハムの子孫が「この世にありても、またこの世の外にありても、空の星の如く数多くして絶ゆることなく」つづくにちがいないという神の約束を指している（「教義と聖約」百三十二—三十、創世紀第十七章、「高価なる真珠」アブラハムの書二〇—十二参照）。

かくの如く「アブラハムの福音」は「日の栄の結婚の福音」であって、日の栄の律法を完全にする人々は「日の栄の最高」に昇って、その家族関係が永遠につづくという福音である（「教義と聖約」百三十二—九—二十五、二十九—三十二、百三十一—一—四参照）。エライヤスが回復したのはこの委任された権能であって、その回復の結果、これから後の時代にある義しい人々

は、昔アブラハムが受けた祝福と同じように、その子孫が永久につづくという祝福を確保することができたのである（マッコンキー長老著「モルモンの教義」二〇三頁参照）。

このアブラハムの時代に任んでいた予言者エライヤスがいかなる人であったかについては何も知られていない。彼がメルケゼデクであったとか、アブラハム自身であったとか言われているが本当のことはわからない、ただ、この予言者エライヤスはアブラハムの神権の時代の鍵をもっていた、そして彼もまたほかの予言者たちのように、予言者ジョセフ・スミスのところへ来て自分の持っていた権能を回復した。それはすなわち、アブラハムの時代に与えられたすべての契約を含むところの福音であったということだけが解っている（ジョセフ・フールディング・スミス長老著「救いの教義」第一巻一七四頁参照）。

## 二、回復の使命をもつ者エライヤス

「Elias」(エリヤ)

主なる神の計画によれば「時満ちたる神権の時代」（「聖徒の道」一九六〇年六月号

参照）は、「神が聖なる予言者たちの口を通して、昔から予言して居られた万物更新（よろずのものの回復）の時代（使徒行伝三〇二十一参照）である。そして、この「よろずのものの回復」をするのがエライヤス（エリヤ）であって、神の御業が完結する前に「確かに、エライヤス（エリヤ）がまず来て、よろずのものを回復するにちがいない」（欽定訳聖書「英文」マタイ伝十七〇—十一参照）。

このエライヤス（エリヤ）とは誰であるか。バプテスマのヨハネがヨルダンの向うのベタニヤ（またはベタバラ）でバプテスマを授けていたとき、ユダヤ人たちはこのヨハネがいかなる人物であるかを怪しんでパリサイ人を遣わしヨハネに質問をさせた。その時ヨハネは答えて言った「わたしは水でバプテスマを授けるが、あなたがたの知らないかたがあなたがたの中に立つておられる。そのかたこそ私の証をするおかたである。そのかたこそ、あの予言者すなわちエライヤス（エリヤ）であって、わたしのあとにおいてになるかた、私よりもえらいかたであって、わたしはその人のくつひをもとくねうちもない」と（ジョセフ

・スミス改訳聖書ヨハネ伝一〇二十八参照、一九五四年改訳口語聖書ヨハネ伝一〇二十六、二十七と比較せよ。

また祭司ザカリヤを訪れて「あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい」と告げた御使は「わたしは神のみまえに立つガブリエルであつて、この喜ばしい知らせをあなたに語りつたえるために、つかわされたものである」と言った（ルカ伝一〇十三、十九参照）。この御使については「教義と聖約」

二十七〇六、七に「而して、われ末の世に關し世の治めよりすべての聖なる予言者たちのの口によりて告げられたる、かのすべてのものを原に復す鍵を託せるエライヤスと共に飲み、またエライヤス、ザカリヤを訪れし時、汝の妻男の子を生まん、その子をヨハネと名づくべし云々」とあるによつて、ザカリヤを訪れた天使ガブリエルはエライヤスであつたことを知る。

さらにまた「教義と聖約」第七十七章十四節には「こは彼（ヨハネ）がイスラエルの支族を集むる使命と儀式なりき。見よ、これこそ書に誌されたるが如く、必らず來りてすべてのものを回復するエライヤスな

りと覺るべし」とあつて、黙示者ヨハネがエライヤスであることが解る。

このように「アブラハムの時代のエライヤス」を含めて少くとも四人のエライヤスがあるといふことは何を意味するか。「よろずのもの回復」を一度に完成するためにはただ一人のエライヤスが遣わされてはいない。この使命を持った者が多数神の御前から遣わされて、各々が持っていた神權時代の鍵と權能とを地上の人間に委している。少くともこれまでにモロナイ、パプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、モーセ、エライジャ、エライヤス、ガブリエル、ラファエル、ミカエル等が神の御前から遣わされた（「教義と聖約」十三、百十、百二十八〇九一廿一参照）。

このことから明らかになるように、エライヤス（エリヤ）とはある特定の一人の名前であると同時に、また「最後の神權の時代」に鍵と權能とを人間に回復する使命を持つ者を代表する名称もしくは称号である（マッコンキー長老著「モルモンの教義」二〇四頁、「救いの教義」第一卷一七四頁参照）。

### 三、主の道を備える者エライヤス

「Elias」（エリヤ）

天使ガブリエルはザカリヤに現われて「あなたの妻エリサベツは男の男を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい」、「彼はエリヤ（エライヤス）の靈（靈氣）と力とをもつて、みまえに先立って行き……」（ルカ伝十三、十七参照）と言つた。

「後から来る一層偉大な者のために道を備える目的で先に立つて行われる働き、もしくは一層偉大な働きのために基礎を置く働き、これらはすべて『エライヤスの靈氣』によつて行われる働きである」と予言者ジョセフ・スミスは説いた。パプテスマのヨハネは「エライヤスの靈氣と力とをもつて」主イエスの先駆けをする者として、アロン神權の權能によつて、主イエスのなされる一層偉大な働きのために道を備える働きをした（マッコンキー長老著「モルモンの教義」二〇四頁参照）。

イエスがペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけをつれて高い山に登られた。ところが彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光の

ように白くなった。すると、見よ、モーセとエリヤ(エライジャ)が彼らに現われてイエスと語り合っていた(マタイ伝十七〇一―三参照)。一同が山を下ってくる時、弟子たちはイエスにお尋ねして言った「いたい、律法学者たちは、なぜエリヤ(エライジャ)が先に来るはずだと言っているのですか」と(マタイ伝十七〇九、十参照)。これは、律法学者たちは、主の来りたもう前にエリヤ(エライジャ)が来るはずであると言っているのに(マラキ書四〇五、六参照)、今ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人は、主の来りたもうた後にモーセとエリヤ(エライジャ)の現われたのを見たから、それでこのように言っているのである(マッコンキー長老著「モルモンの教義」二〇五頁参照)。

主はこれに答えて仰せになった「確かに、エリヤがまず来て、予言者らが録しているように、よろずのものを回復するにちがいない。また私はあなたがたに言っておく、録されているエリヤはずでに来たのだ。ごらん、私は私の使者を遣わす、彼は私の前に道を備えるにちがいない。しかし人々は彼を認めず、自分かつてに彼をあしらった。人の子もまたそのように彼らから苦しみを受けるにがいない。しかし、あなたがたに言っておく。エリヤとは誰であるか。ごらん、私の前に道を備えるために私が遣わす者こそエリヤである。この時弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことと、またそれと共に、予言者らが録した別の者、すなわち来てよろずのものを回復するはずの者のことを仰せになっていることを悟った」(ジョセフ・スミス改訳聖書マタイ伝十七〇十一―十四参照、一九五四年改訳口語聖書マタイ伝十七〇十一―十三と比較せよ)。

註。Elijahのギリシヤ語の形はEliasである。英語風に読むとそれぞれエライジャ「Elijah」、エライヤス「Elias」となる。日本聖書協会発行の旧約聖書ではEliasをエリヤとしてある。それであるから、エリヤと言えばエライヤス「Elias」のことにもなれば、エライジャ「Elijah」のことにもなる。

#### 四、予言者エライジャ「Elijah」(エリヤ)

ギレアデのテシベに住むテシベびとエライジャは、今から約九百年前アハブがイス

ラエルの王であった時代の予言者であったが、そのきわめて著しい霊能の表われは列王紀上第十七章、第十八章、列王紀下第一章、第二章に明らかである。

すなわちエライジャは天を閉ちて数年間雨を降らさず(列王紀上十七〇二)、ケリテ川のほとりからすの運ぶパンと肉とで日を過し(同十七〇六)、やもめの女のかめの粉とびんの油とを絶やさず(同十七〇十六)、息の絶えた子供を生きかえらせ(同十七〇二十二)、祭壇に火を呼び下してパールの予言者たちをくじく(同十八〇二〇―四十四)など度々偉大な業を行ったが、最後につむじ風に乗って天にのぼった(列王紀下二〇十一)。

またその後、イエス在世の当時、姿貌の山でモーセと共にイエスとその弟子ペテロ、ヤコブ、ヨハネに現われた(マタイ伝十七〇一―十三参照)。この時エライジャとモーセとは何のために現われたのであるか。三人の弟子に力づけるための霊の顕現であったか、またはこの世に在って道のために身を捧げようとしておられる神の御子を慰さめるために来たのであるか。モーセとエライジャが現われたのはそのような目

的ではなくて、はっきりした一つの目的があったのであった。すなわち、イエスの姿が變つてその顔が日のように輝やき、その衣が光のように白くなつたあの山の上で、救い主とモーセとエライジャとは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人に神権の鍵すなわち「結び固める」権能の鍵を授けたのであった(「予言者ジョセフ・スミスの教え」一五八頁、「救いの教義」第二卷一一〇頁参照)。

またエライジャは千八百三十六年四月の三日、オハイオ州カートランドの神殿内で予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人に現われて、かつてペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人に授けたと同じ神権の鍵すなわち「結び固める」権能の鍵を授けた。これによってマラキの予言(マラキ書四〇五、六参照)が成就したのである。

### 五、総括

(一) アブラハムの時代にいた予言者エライヤスは千八百三十六年四月の三日、オハイオ州カートランドの神殿で予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに「アブラハムの福音の神権時代」を委した。

(二) 「最後の神権時代」に鍵と権能とを人間に回復する使命を持つ者をエライヤス(エリヤ)と呼ぶ。この場合エライヤス(エリヤ)は代表的名称もしくは称号である。

(三) 「エライヤスの靈氣と力」とをもちて主の道を備える働きをする者はエライヤス(エリヤ)である。バプテスマのヨハネはエライヤス(エリヤ)であった。また予言者ジョセフ・スミスもエライヤス(エリヤ)であった。

(四) イスラエルの王アハブの時代にいた予言者エライジャ(エリヤ)は著しい靈能の所有者であったが、千八百三十六年四月の三日、オハイオ州カートランドの神殿内に現われて、予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに神権の鍵すなわち「結び固める」権能の鍵を委した。それであるから、予言者エライジャ(エリヤ)はまた「回復の使命を持つ者」エライヤスである。

この名称は或る特定の個人の名前として、また或る特別な任務を帯びた予言者たちの代表名もしくは称号として、交換的に使われていることがある。

それであるから、或る文章の中でこれらの名称が使われているときには、それが何どのような使命を持つ者の代表的名称として使われているか、(四)の特定の人物を指しているかを文の前後関係から見きわめる必要がある。

また一つの文章の中で、或る一つの人名が、或る所では甲を指して、他の所では乙を指して使われていることがある。その例としてマタイ伝第十七章十一、十三節を参照されたい。この考えによって前から難解とされていた聖句の意味が明らかになった。(ジョセフ・スミス改訳聖書マタイ伝十七〇十一、十四参照、一九五四年改訳口語聖書マタイ伝十七〇十一、十三と比較せよ)。

(五) Elijahのギリシヤ語の形はEliasである。これを英語風に読むとそれぞれエライジャ「Elijah」、エライヤス「Elias」となる。日本聖書協会発行の旧新約聖書ではEliasをエリヤとしてある。

(六) エライヤス、エライジャ、エリヤの三



## 福田 八重子

〈仙台支部〉

はじめて霊の子がさずかっ

グラント大管長の言葉の中に  
母親の愛は最も完全で、最も真実であり、我々が知っている如何なる愛よりも強いようである。<sup>♪</sup>  
と言う非常に美しい言葉がございます。  
私はこの言葉をよき伴侶にめぐり逢う以前、たしか扶助協会の席で聞いたように記憶しております。その時、「美しい言葉だ」と思い、同時に「私も将来このような愛を施す機会をいただくのだ」という非常なよろこびと、更に、その責任の重大さにめざまさせられたものでした。

「私も将来……」このことは、まだまだ遠いもののように思われていた私に、神様は、昨年七月、女の子、「真理」をさずけてくださいまして、文字通り、身をもってその「愛」を施す機会を、お与えくださいました。

私は、「真理」がさずかる七カ月前に、切迫流産にかかり、一週間の入院と、約一カ月の絶対安静をいたしました。一週間の入院後も、医者は、再度の入院をすすめました。母体を案じて「墮胎をしては」と言ってくれましたが、墮胎をすすめられた時の心は、言い表わすことのむずかしい、かなしさに包まれました。

私たちは、医者言葉の度に、共に祈り相談しあい、その結果、最善を尽くしてみることに決めました。その後、夫は、商売、教会の仕事、家事、私の看病、と朝から晩まで、ひまなく働き続けてくれました。忙しく台所で、私の食事を準備している夫の後姿を、床に入って見ている私は、じっとしてられずにおきあがり、そうしては、おどろく程大きな声で叱られたり……そんな事も幾度かありました。が、神様は、私たちの努力と心からなる祈りをさき入れて、無事、「真理」をさずけてくださいました。

はじめて我が子を手をにいだいた時、私は墮胎をすすめられなくても、なお、最善を尽くして胎児の生長を祈り続ける道を選んだことを、心から喜び同時に、そのかげにあって、最もそのために努力してくれた愛する夫に心からの感謝を

せずに行われませんでした。

私は、バプテスマをうけて以来、数々のお恵みをいただきました。がその中でも特に次の三つの大きな恵みを数えあげることができるのです。それは、

(一)よき神権者を伴侶にもち得、(結婚) (二)その伴侶との間に神様から一人の霊の子をさずかり、(出産) (三)それ以前に、専任宣教師として伝道する機会をいただいたこと、でございませぬ。この三つながらすべて、伝道の仕事として大きな責任と役割をふくんでおります。宣教師の仕事は、私に数多くの人の霊を救いに得させる意義ある経験を与えてくれました。がしかし、私はそれにもまして、今ここに母親として一人の霊の子をさずかり、この子が将来、神の目から見ても価値のある、神によろこばれる子として育てる重大な責任をいただいております。

私がこの子を、神の目から見ても価値があり喜ばれる人であるように育てることができたなら、将来私と同じ宣教師の機会をうけても私以上の成果をあげるでしょうし、その機会がなくても、モルモンのよき妻として母として大きな役割を果たせられると信じております。

私はこの原稿を書きながら、この子が名づけられたその名の如く、真理の道にそって、直ぐ歩むことを心より願っているのです。



## 第 2 回

### 鈴木家を訪ねて

天井の高いガランとした部屋の中、犯罪人名簿と写真や各種の重要な証拠写真、物件の中に埋れて日夜犯罪防止の研究に励む一人の末日聖徒がおられる。彼の肩書は山形県警察本部刑事部鑑識課写真係長、この正義感にあふれた人こそ山形支部第一副支部長の鈴木吾郎兄弟である。

一九四三年（昭和十八年）山形県警の鑑識課に勤務して以来戦後は特に多くの殺人事件解決に関係したが、この道一筋にまい進されて今日にいたっている。

御家族は奥さんの政子姉妹と幹雄

兄弟、茂兄弟の御二人の御子息である。鈴木兄弟のホームに福音が最初に伝えられたのは一九五二年とのことである。当時の官舎に外人の宣教師が訪れお隣におられた小坂姉妹と共に鈴木姉妹が家庭集会を受けられるようになった。小坂姉妹がまもなくバプテスマを受けられるので共に受けるべく御主人の同意を得るよう努めたが二年間待たされてしまったそうである。

しかし忍耐強い姉妹の努力が実り鈴木家で最初のバプテスマを一九五



四年七月ハズラム長老より受け、末日聖徒の一姉妹として、妻と母との重責を果しつつ、家族に福音をなご一層伝えることになった。

それからまた三年後の一月に幹雄兄弟がバプテスマを受け、続いて三月三十一日には鈴木兄弟も末日聖徒として新に誕生された。また六月には茂兄弟がバプテスマを受けて、一家すべてがモルモンとなり、地上における小さな天国が誕生した訳である。この年は鈴木姉妹にとって非常に喜ばしい記念すべき年であったこととのばれる。

鈴木兄弟が改宗するについて次のようなエピソードがある。

鈴木姉妹は家庭集会を受け始めると同時に鈴木兄弟にも喜びを伝えるように細心の注意を払い、モルモン経やよきおとずれ、信証講義（現在

の信仰箇条の研究）などの經典書籍等を目のつき易い所に、特に枕元に置かれたそうである。また家庭集会を一諸に受けるべく準備するが宣教師が来ると入口が二つあるので別な入口から（出口になってしまおうが）出られてしまいいかなかお会いにならないかった。しかしながらモルモン経は秘かに読んでおられた。

胃の病気で療養しなければならなくなつて入院されたとき、数日をへた時に鈴木姉妹から電話がかかり、これから宣教師を伴って行ってよいかどうか小さな声で尋ねられた時に、逃げ出すことができなかったからでなく心から迎える準備ができた、そして病院のベットの中で家庭集会を受け始めたが、勉強が進むに従つてモルモン経や教会の本を夢中になって読む内に暗雲が晴れてゆ





き、真理を見出し、病床の中で感謝と感激の涙がほほを伝ることが度々あった。退院後健康はまだ危ぶまれていたが、山寺の谷川で雪とけのはだをさすような流れの中に立ち、バプテスマを受けた時には神の御力を強く感じ大きな喜びに満たされ強い証しを受けられたとのことである。

二人のご子息も兄弟愛が強く中学三年と小学六年で、お互に来年は一年生になるべく励まし合って勉強している。ある日の事、息子さん達の会話が聞くとともに耳に入った。その内容は「ねえ、兄さん、僕の名前は茂だが幹がなければ枝や葉はよく茂らないね、だから兄さんは僕にとって大事だね」「うん、そうだ幹だって枝や葉がよく茂らないと大きくなれない、だから僕も君が必要だよ僕たちがお互に助け合うようにとの

意味でご両親が、僕の名前をつけられたんだよ」と。美しき兄弟愛！ご両親が子供たちに希望すること、は知識だけがまった人間でなく、精神的靈的に発達した者となって欲しいそのこと、そのために神の教えをしっかり学び行い教会の立派な会員であるように祈られている。

最近鈴木兄弟に仙台へ警察学校の教官として栄転の話があったそうだが、鈴木姉妹と相談の上山形支部で働くためにことわられたそうである支部発展とご子息の成長につくされる鈴木兄弟と鈴木姉妹は強い基、根を下されているので幹は強く枝は茂り豊かな実りが期待できるのである。愛と理解にみちたすばらしいモルモンホームに主の限りなき祝福あらんことを心より祈りつつ筆を置く。

(今井一男記)



YOUNGER

GENERATION

# 私の叫び

四枚田民子

(小樽支部)

十七才の少年少女、恐るべき十七才。

この言葉ほど現在の日本で関心を持たれているものはありません。私は日頃この位の年令の生徒を対象として過している職業なので特に深い関心をよせていますが、このことに関連して、つい昨年の秋自分の学校の生徒によって味わった名状し難い気分(精神的なショックと云いましょうか)が再び私の心にはっきり浮び上って参りました。

それは小樽地方で催された合唱コンクールの時のことでした。私の学校では二、三年来音楽教員の不足から生徒の能力は大幅低下しており、新任の先生が入られてもまだまだ整備の段階であったので音楽部としては出場を見合せることにしました。所が学校対主催者側の特別の事情があり、止むを得ず出場しなければならぬ羽目に陥りました。練習期間は他校の十分の一の約二週間、出場する以上は余り見苦しい敗け方をするのも残念です。せめて普通程度の演奏をさせたいと、それからは生徒と共に朝に夕にと文字通りの猛練習が始まりました。生徒たちは実に真剣そのもの、あらゆる欲望を踏み越え涙ぐましい程頑張りました。その姿を見て私も心から神に祈ったのです。その甲斐あって夢にも考えていなかった一位優勝を獲得いたしました。

## GENERATION

### ちがった道にさまよう

七十人会最高評議員会会長

マリヨン・D・ハンクス

愛名を用いてジェリーと呼ぼう、彼女は親しみのある明るい眼を持った魅力的なモルモンの女性で、教会では活動的であり、家庭では幸福で、学校には入学したばかりで希望に燃えていた。或土曜日の午後、行楽地で開かれる女性のパーティの招待を受けた時、彼女は胸を踊らせた。その中によく知り合った人は誰も見あたらなかったが、或人々は教会で見かけたことがあり、また学校の社交方面の指導者も何人かいた。白い封筒は彼女の幸福感をそそった。

ジェリーが新しい洋服を着、新型の頭髪でパーティに臨んだ時、彼女は暖かく迎えられ、皆に紹介されブリッジの机に案内された。ブリッジの遊び方を知らなかった彼女は、最初の困難にぶつかった。けれどもすぐ親切に教えてくれる人が出て来たので、この難処を切り抜けることは出来た。或人々が煙草の火をつけ出したが、間もなく彼女は自分一人だけが煙草を吸わないことに気がついた。シヤパンがくばられた時、彼女は当惑し、只、彼女だけがそれを断った。或者たちは何かささやきあって彼女を見てあざ笑った。



喜び踊り上る生徒たちを見て最初に私の口をついて出た言葉は「皆さんおめで度う。あなたたちの努力に対して本当に神様のお導きがあり優勝できました。」とそこまで云った時、突然「ワァッ」と歓声が上りました。いや歓声ではありません、爆笑だったのです。「神様？先生は神様がいると信じているのですか。」可笑しさを押え切れないと云う表情でした。感じ易く清純なこの年頃の生徒たちの敬虔な瞳を予想していた私は一瞬思わず息をのみました。心ない第三者から見たらその光景は面白い時代感覚の対照だったかも知れません。しかしこれが現在日本の十代の実態なのです。やがて静かになった生徒の理性に私は訴えたのです。「私たちの努力だけで勝利を得られる筈がない。世の中には人間の力や智識だけで解決できないことが沢山ある。私たちは神の實在を信ずべきではないか。」しかし容易にそれは理解し難い風だったのです。心の支えを失って

さまざま現代日本の縮図を目的たあり見たように、私の心は暗れたる気持になったのです。

今後自分は教師として、またモルモンの会員としてどのように処して行かなければならないかが大きな課題として私の心に焼き付いたので、この後期

## YOUNGER

この部屋にいた或者たちはジェリーの知っていることを教えられたこともなく、無関心であった。少数の者はかつて教会の空気にふれたことはあるが、長つづきがしなかった。また他の一部の者はかつて教えられ、現在何をしているかを知っており、ジェリーと同様に不安の念にかられながらも、正しい決心をするだけの勇氣にかけて、大衆の力に圧倒されてしまっていたのである。このグループ全体の内でジェリーだけが異った道を選んでいる。

これはジェリーにとって幸福な経験ではなかった。彼女は間もなく、がっかりして、悲しげに、おしゃべりするこのグループから離れ、一人ぼっち涙ぐんでたずんだのであった。

このような苦い経験をしたジェリーは、涙ながらにこの事をお母さんに告げた。母親は、又涙を以て彼女を慰め、その立派な態度をほめ讃えたのである。

ジェリーのこの経験は昔のことであるかもしれないが、今日の問題でもあるのである。これに類似することは、彼女の同僚や先輩たちの間でも、日夜、家庭において、事務室で、個室で、又パーティの席上などで数多く見られることである。時はたち環境は変わるけれども人間は依然として自分で決定しなければならぬのである。神の愛は決して減少したわけでもないし、又神の子たちに対する関心が弱まったわけでもない。神は依然として大きな寛容さを以て、そのみこころを人に知らせよと努めているのであるが、人はいろいろと異った道によって、これに応じているのである。

## 昔の話

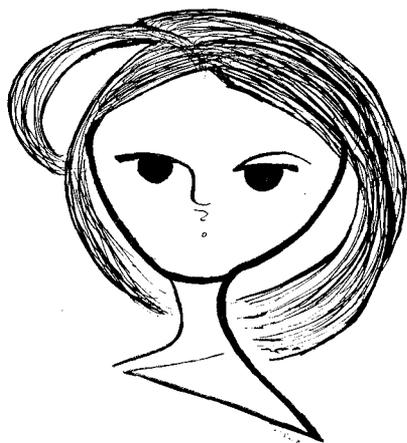
アダム、ノア、アブラハム及びモーゼの時代に、神の言葉を聞いて、それからわきにそれた人がおり、又それを聞いて理解しなかつた人もおり或はその価値を感じてもその幸福を享受するだけの代価

せずつて相つぎ起つた事件はこのことを本当に裏書きするものであります。

信仰を持たない人間は、道標のない砂漠に放り出された旅人のように生きる道も失つたのも同然と云えましよう。私は音楽を教えることを仕事としていますが、この音楽は特別時間のかかる芸術です。若い時には他のことを省みないとまもなく、只自分の技術を磨くことに明け暮れました。年をとるにつれて自分は偏つた人間だと云うことに気付きましたが、この様な仕事をする者は特別なのだからこれで良い、自分の努力でかち得たものはみな私の才能と力によつたものであると憚る所無く考えていましたので、全く自身に充ちて暮っていたのです。ごう慢そのものでした。しかしそれは間もなく砂の上に建てた家のように崩れ始めました。次々に起つた不幸や災難、女性が一人で一家を支えて生活して行く為には日本はまだまだ困難な国でしたから、そのために起る摩擦や迫害は私の神経をすりへらし、誇らかに持っていた自信は一つ一つ奪われて行つて仕舞いました。最後に只一人の子供に一体何を残して私は死んで行くのかと云う考に到つた時本当に愕然としたのです。何年かこの悩みのために私は健康さえもむしばまれて行くやうでした。

しかし神様の愛は真に広く豊かなものです。私のような者にも福音の手を差し伸べられる機会を与えて下さつたのです。教会の空気と、そしてそれぞれ異つた環境の中で証する会員たちの言葉は、今まで行つたことのあるどの教会よりも神様の愛と聖霊に満ち溢れたものでした。殊に十代の少年少女の述べる証は聞く度に人間としての進歩の素晴らしさを感じさせ、私の心はいつも感動し涙を抑えることができませんでした。その度に自分の信仰を持つことの遅過ぎ

## GENERATION



を払おうとしなかつた人もおる。クリストが人々の間にいた時にわずかの人がその話を聴いて従つたが彼はそれを種播きの譬を以て群衆に次のように教えた。路の傍らに播かれた者は天国の言をきいて悟らぬ者である。或人たちは石地に又は浅の中にその種を受けたので、艱難或は迫害に堪えられなかつたり、世の心労と財貨の惑に心を奪われてしまつたのである。良い地に播かれた或種は、御言をきいて悟り、実を結ぶ人によつて受入れられたのである。(マタイ伝十三章)

### リーハイの夢

モルモン経は、この大切な教えをはつきりした素晴らしい方法を以て教えている。リーハイそしてその後ニーフアイは偉大な夢又は示現に祝福されたが、その中で根本原則がドラマ化されて力強く述べられているのである。そこには生命の木があるがそれは神の愛を表している。その木に通じる真直ぐな狭い道がある。そしてその道に沿うて、汚れた川水から旅人を守る為の鉄の棒が走つている。その道はその川面からたちこめる暗黒の霧によつてもうろうとしていく。深い淵をへだて、人々が一ぱい入つた大きな広々した建物があるがその人たちの衣服は非常に美しく彼らは生命の木の実を食べて



# 祈

## その1

鎌倉弘子

(松本文部)

たことが悔やまれるのでした。一人でも多くの若い人が、一日も速くバプテスマを受けられ、魂の放浪者にならぬよう進歩して頂き度いと願って止みません。

さまよえる日本人の心を支えるバックボーンはキリストの教えであり、モルモンの精神であると心から叫ばずにはいられません。これを為すことも、またモルモンの会員に与えられた使命でありましょう。皆様と共にこの使命を遂行することを決意してこの話を終り度いと思えます。全てを御子主イエスキリストの御名によって申し上げます。アーメン。

私は、かつて教会といふものは、まったくといってよい程何も知りませんでした。半年程前に友だちに「水曜日の英語を勉強しにいかない？」と誘われてはじめて教会という所に来、そしてまたわずかではあるけれど教会

## YOUNGER

いる人を指してあざ笑っているようであった。

鉄の棒は神の言葉を表し、汚れた川水は、地獄の深淵で、暗黒の霧は、悪魔の誘惑である。大きな建物は、人々の空想と高慢を象徴している。

### 異つた道

この夢の中に又種播きの譬の中に、或は又ジェリーの経験した中に、神の子たちが神の誠命と忠告に応ずるいろいろ異つたグループがいる。生命の木又は神の愛に無関心な群衆は大きな広げた建物への道に進みたがっているのである。彼らの内の多くの者が溺れ又或る者は、ちがつた道にふみ迷つて姿を消してしまつたが群衆は建物に入つて、木の実を食べている人を指してあざ笑っている仲間に加わつた。第三のグループは木の方へ導かれている道に向い或者たちは既に出発した。けれども大きな暗黒の霧(悪魔の誘惑)が起つて彼らはその道を見失ひさ迷つて失われてしまつたのである。

又他の者は第三のグループで、よく鉄の棒につかまつて暗黒の霧の中を前進し、よく木の実に手の届く処まで達したのである。けれども彼らはその実を食べ終つてから、彼らをあざ笑っている者たちの為に恥じて禁じられた道に落ち失われて行つたのであつた。

夢の中の最後のグループは鉄の棒をしつかりと握つて木の実に到達し、それを食べたのである。彼らはリーハイと共にその木の実は今まで食べたいかなるものにもまさつて甘味であることを発見し、彼らの靈魂は極めて大きな喜びに満たされ、直にそれを他の者にも分ち合いたいと言う気持になつたのであつた。

(ニーフアイ第一書、八、十一、十二、十五)

それは昔のことであると同時に今日のことである。我々は神の愛の貴重な実を自由に求めて分ち合うこともできるし、又それを無視

というのを知りました。

私が教会へ来る以前は、少くとも何か不満のようなものを抱いていました。でも「祈り」ということを知って、神様に感謝するという気持ちを持つようになってからは、ずいぶん変わったと思います。

また教会へ来て、兄弟姉妹たちは、世間の一般の人とくらべものにならないほど皆やさしく、また愛情に満ちているということを感じました。

私は今、心から教会へ来ることができたと感謝しています。

十六才(求道者)

## その2

宮城光子

(松本支部)

祈りはいかにだいじであるか、わたしは経験を通して知ることができました。「祈り」それは形にあてはまったものではありません。真実の心からあふれ出したことばです。祈りをする時の気持ち程、何かすっきりとしたものを感じることはほかにありません。

わたしが最初にお祈りをしたのは、日曜学校にはじめて出席して長老から特別なレッスンを受けた時でした。わたしはまだその時、祈りとはどうやるものか知りませんでした。しかしわたしは、今ここに長老よりお話を聞く機会がありましたことを感謝しました。そしてわたしをここに導いてくださった天のお父様の御恵みに感謝しました。この当時から、もう二年の月日がたっています。けれど、

して世俗の知恵や空想に満足する道を求めることもできないのである。我々がもしちがつた道にさ迷うなら禁断の道にふみ迷い失われてしまうのである。ジェリーの場合のように、その選択は或場合には困難にぶつかつたり、又或時は孤立せねばならない場合もあるのである。けれども正しい選択の報賞は素晴らしいねおみできないものである。何となれば神の愛の木の実は最も甘いものであり、すべてのものにまして極めて大きな喜びを以てその靈魂を充たすものであるからである。

私は  
立派な  
モルモンに  
なりたい。

## GENERATION

「信仰とは、信じて行うこと」であるということをいつか学んだことがある。教会で、いわゆる熱心なクリスチャンといわれている人には、その行いに必ず何が現われている。私の日々の行動を見てクリスチャンであると思う人はたぶんいなくてもいい。誰でも口先だけで私のように偉そうなことを云うことはできる。それだけでは他の多くの教会と何のかわりもない。モルモンは実行の民とよくいわれるように、模範的なモルモンは、絶えず神のことを心に留めてその教えを実行に移している。私の場合、信仰の弱さのために行動に現われないのだろう。もちろん意識してできるものではない。人間性から、人格からにじみ出るものであろう。

立派なモルモンになりたい。心の広い、高尚な神の教義にいつまでも忠実に働くことのできるモルモンになりたい。学生(十七才)

若松道範 (名古屋支部)

この生まれてはじめての祈りのことは忘れることができません。わたしは今もその当時のことを感謝しております。

わたしたちはお祈りすることによって、天のお父様とお話することができません。お祈りすることによって興奮した心は静かにやわらいできます。お祈りすることによってお父様の教えを受け入れることができます。お祈りすることによってお父様の導きをいただくことができます。『怒りにみちたるその時も、汝をさまたぐる人々のために主に祈れ』わたしはこの讃美歌を時々口ずさみます。常に主にお祈りするとゆうことは、幾多の人々の中にいると、なかなか行うことができません。しかし、朝何物にも手をつけずに、主に感謝と願いのお祈りをします。また、食事どきも、そして、晩は床につく前に感謝のことは捧げます。また、すべての集会の開会にあたって、閉会にあたって、わたし達はお祈りをします。

かつて、ジョセフ・スミスは、敬虔なお祈りによって、神様の唯一の真の教会を知りました。また、熱烈なお祈りによって神権は回復されました。ヤコブ書に、『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずにも惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう』という聖句があります。ほんとに神様は公平な方でありませう。わたしたちが求めそして努力したなら、聖霊の導きを与えて助けてくださいます。祈る心を失わずに、もちつづけている、ということには、常に良い結果をもたらしてくださいます。

(十六才)

YOUNGER

私	の
証	詞

柳 田 喬 夫

(名古屋支部)

僕は小さい頃から母親に手を引かれて教会に通った。ために、中学校に入って、自分のことを自分で考える様になった時にはすでにバプテスマを受け、神権をいただいていた。神権を持っても信仰は有ったのか、無かったのか、自分でも判らない程度のものであった。だが神様が存在する事は全然うたぐらなかつた。そのころ、教会に行つてなかつたら、きっと神様について、信じなかつただろうと思う。もしそうだったら、今頃はむちゃな生活をしていると思う。だから僕は母に大変感謝している。

この教会の教えを学んでいけば行く程、信仰が強くなる。それはこの教会が真の神の教会だからと思ひ、また確信している。

自分の持つ責任を忠実に果せば、私たちは非常に幸福になる。これは神様が真に存在し給っていることを表していると思う。

僕は末日聖徒イエス・キリスト教会が、唯一の真の神の教会であり、そのすべての教えが正しいと信じ皆様の前に証することのできませう。

この証を救主、イエス・キリスト様の御名によりいたしましたアーメン。十六才(学生)

## 質問への答



# 安息日をいかに すごすべきか

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

(12使徒会会長)

### 質問

私は Y・W・M・I・A の教師で、また二人の子供の母親でございますから、この質問は私にとって二重に大切な意味がございます。この質問は、安息日には何をしようかという質問であります。私の教えているクラス生徒が安息日を聖く守るということについて常にもっている考えはきわめて消極的であると思えます。私のクラスのティーンエイジャの者たちにとっては、一日中本を読んだり人を訪ねたりすることは、全然おもしろくないことにすぎません。私たちは、たびたび安息日は人のために造られたものであって、人が安息日のために造られたのではないと聞かされているので、一人一人の人が休息をすることすなわち安息日を聖く守るのだという考があるのは困難せずにはわかりません。言葉をかえて言えば、一週間一日も休まずに手足を動かして働いている人たちは日曜日に手足を休め、また一週間中頭を使って働いている人たちは、日曜日に戸外へ出て手足を伸ばさなくてはならないというのであります。これは本当でしょうか。日曜日に馬や自動車などに乗って楽しむのは間違っているでしょうか。日曜日にテレビを見るのはどうでしょうか。日曜日に私たちがやれるいろいろなことなどはどうでしょうか。以上は私のクラスの十五才になる生徒たちの質問でございます。

### 解答

安息日を守れというのは十誡の中でも非常に大切な神の命令である。それで、今日ここで再びこの命令が古代イスラエル人に神から与えられた通りに、また今日神の福音によって教会が始められている時代に近代のイスラエル人に与えられている通りに、これをくり返して言うのがよいことである。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもめ、はしたため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうち、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」(出エジプト記。第二十章八〜十二節)

この神の命令はきわめて明確である上に、主は今日神の福音によって教会が治められている時代に、さらに次のような教えをたまわった。「すべての事に就きて、主なる汝の神に感謝すべし。汝誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て汝の神に義しき捧物をなすべし。汝なおさら充分に世の汚れにそまざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。そは誠にこの聖日は、汝命せられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。さりながら汝の誓言は、正しく毎日常に神に捧げられざるべからず。されどこの主の聖日に於ては、いと高き者に汝の捧物と聖式とを奉りて、兄弟たちに向い主の前に於て汝の罪を告白するを忘るべからず。而して汝この日には他に何事もなすことなかれ。ただ汝が断食を完からしめんため、言い換うれば汝悦びを以て充されんため、真心をこめてその食物を支度することのみを為すべし。誠にこれは断食と祈りにして、言を換えて言えば悦びと祈りなり。」

(教義と聖約。第五十九章 七〜十四)

この題目についてはなお多くのことが言っているが今日の目的に対しては以上で充分であろう。主はこの御言葉力を強く、しかし親切におうせになっている。この御言葉ですすめておいでになることに服従するほどに信仰強く、また誠実である人々には、大きな祝福

が待っているにちがいない。神を愛せよという第一の大きな命令を常に守っている当教会の忠実な会員たちは、神が与えたもうどのよな命令も、これを守って良い報いがなかったり、また守るのに困難を感じたりすることは決してない。

神はその命令に従う人々に対してとこしえの幸福と祝福にならないならば、どのような命令も当教会の会員や世の人々に与えたもうたことはない。主は、いついかなる時でも人間にこの世かぎりの律法を与えたことはないとおうせになっている。人間の目にわからなくても、神の命令はどれをとっても霊についてあてはめられる。このことは安息日を守ることにしてはっきりと言える。

小さい子供たちが主がおうせになった通りに安息日の律法に服従しなくてはならない理由をたずねるのはもつともである。これは全く解答を与えるに値することであるから、これからできるだけ答えることにする。

もしも私たちが充分信仰が強く、また謙遜であるならば、安息日についての律法のみならず、またそのほか神の与えたもうた律法はみなこれに従うことであろう。たとえ小さい子たちであっても、この信仰は植えつけられなくてはならない。また家庭で巧みに教えるならばこの信仰はかならず強くなるものである。主は各週の六日間働いて暮しを立てる日を人間にお与えになったが、この六日間にたいいての人間は、とくに小さな子供たちは、なにか楽しみをしたり休養をしたりする時間をもっている。労働にたずさわる人たちが、また同じく専門の職業に従事している人たちに要求される時間が、一週六日の間少しも休養と娯楽に当てる時間がないほど全部要求されることはよほどまれである。

学校の生徒たちは授業のある日でも毎日なほどうかの休養をとる

時間がある。学校の生徒たちが体育や試合やそのほかになぐさみをしてゐることは、一週六日の時間が全然自由になる時間なしにまつているのではないことを示している。

また大ていの実業人や専門の職業をもっている人たちも、ゴルフをしたり釣りをしたり狩をしたりする時間を見つけることができる。従つてこれらの人たちは何も日曜日にはスポーツやそのほかのなぐさみをして「手足を伸ばす」必要はない。今日労働者の中には一週五だけ働いている人たちもある。これらの人たちはそれでも安息日もまたぶらぶらして慰みに費す日だと思ふ習慣になつてゐる。

一週間少しも自由な時間がないというのはよほど例外である。もしも私たちが自由になる時間をよく注意して考えてみるならば、勉強と良書を読んで精神を修養することのできる自由な時間があることがわかるであらう。

一週六日という時間は、人間が自らとその家族の衣食住の世話をする時間を十分に与えるものであるから、主は私たちに第七日、すなわち安息日に靈を養へとおうせになつた。

今日大多数の大人と子供たちは、一週六日だけを肉体の必要とする目的に用いることに満足せずして、その靈を飢えさせてゐる。

もしも人間が食物をとらないならば飢える。もしも人間がすいみんをとらないならば衰弱して病気になる。しかし人は、靈が飢えるときに人の心がわずらうことを、ほとんど考えてみないのである。人は心にわずらいがあつても良心のとがめがなければ、何らの痛みも何らの苦しきも感じない。

もしも人がしじゅう安息日を破るならば、ついにその良心がまひして、良心の警告も靈の糧を与えよという叫びも心にとめぬようになつてしまふ。主はこの世のことをすべてするために七日の中六日

を与えたもうたから、安息日を守れという命令を人間に下さることは決して理由のないことではない。

子供たちでも大人のするようにその靈に糧を与えなくてはならない。また主のみこころに従う人々は男と女の差別なくみな安心を得て、神のみこころに背く兄弟姉妹たちよりも多くの祝福を主にお願ひする権利がある。

一週間の中第七日に商売を休んで、主の命令通りにこれを主の御用にささげ、このようにして繁昌をした人々の例が多数に証明されている。これらの人々は、靈の飢えが充たされたのみならず、またこの世のことにおいても、もっと豊かに祝福を受けていると証詞をしてゐる。

主は予言者マラキを通じて、もしも人々が主の命令を守るならば豊かな祝福をたもうとおうせになつたではないか。マラキ書。第三章十六〜十九節を見よ。まことに主のお約束に間違ひはない。

全く安息日は気まぐれに主を喜ばせたり、または一週六日の間に人間がする習わしであることをする機会を人間から奪いとるために与えられてはいない。主が安息日をお与えになつたのは人間のためである。靈がそれを要求している。七日の中一日を主に捧げること、靈のためにも、また肉体のためにも共になくてはならないことである。神のみ国のことを学ぶのは、人間がとこしえに生きるためになくてはならないことである。このようにして、人は神のみ国の中で完全になる方向に向つて進歩するために導かれる。人は自らがとこしえの幸福を得るために、自分のもつてゐる七分の一の時を宗教上の研究と反省とに喜んで捧げ、また主が指摘したもうた通りこの日には日常の職をさし置いてその働きを休み、自分の喜びが充たされるために祈りの家で断食の精神をもつて、いと高き神を礼拝し

なくてはならない。今日そうであるように、誰一人自分の靈性を高めるために多くの時間を割きすぎではない。末日聖徒らは、福音の根本原則に関する知識に徹まされてはいない。これらのことにもっと努めて心を用いるのは一人のこらざる義務である。千八百三十二年の九月には主がすでに教会員におうせになっている。「われ今汝らに一つの職命を与えて汝ら自らを警めしむ。すなわち汝ら永遠の生命なる言に勉めて心を留めよ。そは汝ら神の口より出るすべての言によりて生くべければなり。主の言は真理にして、およそ真理なるものはすべて光なり。およそ光なるものはすべてまたまに、すなわちイエス・キリストの「みたま」なり。」

(教義と聖約。第八十四章四十三、四十五)

小さな子供たちが安息日になせ遊んではいけないか、なぜ映画を見に出つてはいけないか。なぜそのほかの遊びをしてはいけないか知らと、思うのはもっともである。楽しみを与えると同時に、正しい教えによつて自分自身もまた子供らをも教育することのできる両親たちがなすべきことがここにある。この教えは聖典からとつたいろいろの物語、当教会の歴史、教会の初期の時代に驚くほど立派な働きをした教会の兄弟たちの自叙伝の中に見出される。

このようにして安息日は日曜学校がすんで、夜聖餐式があるまでの間興味のあるものに行うことができる。またこのようにして、映画やそのほか不健全な娯楽のもつおとし穴が避けられるのである。

安息日には乗って楽しんで、テレビジョンを見たり、ラジオを聞いたりするのは悪いかという質問であるが、實際犯罪や殺人、強奪の場面や、そのほか福音の精神に反することに關する映画を見ることは、安息日にふさわしくないと、また事実、映画の大部分は今あげたような場面に満ちていることを認めざるを得ない。

私が習慣とするかぎり、安息日には教会が放送する説教やその他のプログラム以外のものを家庭で見たり聞いたりすることはない。私たちは宗教上の義務と約定があつて出て行くほかには、安息日に自動車に乗って楽しむことは決してしない。

主はイスラエル人に罰を下して、かれらをイスラエルの国から四散させたもうたが、これは主としてイスラエル人が安息日の律法を破つたによることである。

エゼキエルはユダヤ人が他國に捕えられていた時代に神のみに声よつてかれらに言つた。「主なるわたしはあなたがたの神である。わがために歩み、わがおきてを守つてこれを行い、わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなつて、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。しかしその子どもたちはわたしにそむき、わがために歩まず、人がこれを行うことによつて、生きることのできるわたしのおきてを守り行わず、わが安息日を汚した。そこでわたしはわが憤りを彼らの上に注ぎ、荒野で彼らに對し、わが怒りを漏らそうと思つた。しかしわたしはわが手を翻して、わが名のために行動した。それはわたしは彼らを導き出して見せた異邦人の前に、わたしの名が汚されないためである。ただわたしは荒野で彼に誓ひ、わたしは異邦人の間に彼らを散らし、国々の中に彼らをふりまくと言つた。これは彼らがわがおきてを行わず、わが定めを捨て、わが安息日を汚し、彼らの目にその先祖の偶像を慕つたからである。」

エゼキエル書。第二十章 十九、二十四

ジョセフ・エフ・スマミス大管長は、かつて東部の州の学校で學んでいる二人の令嬢に手紙を書いて返事をしたことがあるが、その令嬢は父にあてた手紙の中で、Y・W・M・I・Aの会員ののために出された

質問と同じ質問をしたのであった。その返事の中でスミス大管長は出エジプト記第二十章八十一節を引用して次のように答えられた。「あらゆることに慎重に中庸を得て、じくなくてはならない。これは神の命であつて私たちは守らなくてはならない。これには健全な宗教上の理由がある。まことにこれは肉体上の律法であると共に、また神の律法である。これに心を用いる者は神の律法に服従するよい報いを受め、また肉体の律法による利益を受ける。これはすいみんが人におよぼすほど速やかに感じられないが、すいみんに劣らず人間に必要である。誰もすいみんをとらずに生きてはおれない。すいみんをとる結果が生命を延ばす力があると全く同じように安息日に休むことも生命を延ばす力がある。もちろん肉体だけについていうならば、人間はすいみんをとらないよりも安息日に休むをとらない方が長生きをするかも知れない。

しかし霊の点からいうと、安息日に休めという律法をことさらに破るならば、これは眠らないことが人間にとって致命的であるように、道徳の生長と信仰にとって致命的である。しかし大事な点は神がこれをおうせになったからだ。そして神はこれを自らのためではなくて人間の幸福のためにおうせになっている。従つて人はこの命に従わなくてはならない。もしも人がこの命に従わないならば、人はその結果を肉体の上にも霊の上にも甘受しなくてはならない。

人間の欲する快樂を愛してこれを追ひ求める者たちにとって、人生の義務、すなわち人生の中なくてはならない部分は退屈な無味乾燥な楽しみのない、そして見かけ上、無価値なものである。しかしながら、これらの者の快樂は消え去り、かれらの喜びはなくなり、かれらにのこるものは灰になった宝物と絶望的の後悔だけである。

安息日を守りこれを聖く保て。そうすれば、もつとその価値がわか

るにちがいない。

またある別のときスミス大管長は次のように言っています。「安息日を正しく守るということは、あらゆる末日聖徒が守らなくてはならない明白な義務である。またこれは青年男女、男の子、女の子の区別なく誰もみな守らなくてはならない。

このたが主張されたことをくり返さなくてはならぬとはまことに不思議に思われるともいえるが、それは世の中にはある人々や、時にはある地方全部の人々がこの義務を怠ることがあるからであつて、従つて神の訓戒を受けなくてはならない。

安息日に人は何をしなくてはならないか、主が予言者ジョセフ・スミスに下したもうた啓示はこの点をまことに明らかに示している。この神の啓示に私たちは従わなくてはならない、その言葉が救い主の教えと全く一致しているからである。次にその簡単な要求をかかげることにする。

「安息日は汝らの働きを休むために汝らに定められたり。安息日は、汝らが礼拝し、祈り、汝らの宗教上の信仰と教務とを熱列に示す、すなわちいと高き神に礼拝を捧ぐべき特別の日なり。安息日は集りにても家庭にても、何所にありても汝の時間と注意、すなわち汝の心を占むるべき考えとを主の礼拝に捧ぐべき日なり。主はこれらのことを知りて行わざる人々を喜びたまはず」。

日曜日の朝早くから、自動車や数頭立ての馬車や電車に乗つて観光地や遊び場所に風を切つて行き、また妻子を連れて友人や遊び場所を訪れる者たちは、宗教上の信仰や義務に熱心であることを示しているのではない。

これらの人々はこのようにしていと高き神に礼拝を捧げているとは言えない。

# 実生活の教訓

七十人会最高評議員会々長

マリオン・D・ハンクス

録の保存と、それが現今、いかにして予言者ジョセフ・スミスの手にもたらされたかは、この書物の素晴らしい魅力的な特性と由来を示している。

二、主としてその外面的な証拠を通じてモルモン経に興味を持つ人々がおる。モルモン経の考古学的、歴史的、地理学的及び文学的な理論及び観点、証拠を提供する多くの書物が出版されて来た。今日

の探求は未開の分野である（ヒュー・ニブリー博士によるモルモン経勉学法）そしてコンチキラの新しい試みと経験はこの方法に本質的な刺激を与えている。

三、多くの者がモルモン経の偉大なる神学的教えと、最後の章のモロナイによってなされた靈的な証の素晴らしい約束に興味を持っている。モルモン経は聖書と相携えて聖書の中で教えている素晴らしい永遠の真理に、大いなる力と理解を加えているのである。例えばマタイ伝三章十三節から十五節迄のキリストのバプテスマに就てのニーフアイ第二書三十一章におけるニーフアイの説明によっていかにその理解が深められたかを見ればわかる。

四、上述のまたその他の価値あるモルモン経勉学法がある。この書に見られる大いなる、生きた教訓、の中に信仰と証の最も実のある、満足される根源を見出す多くの人がおる。一頁一頁に素晴らしい個人的な教訓と靈感を見出すことができるのである。自分自身の

人がモルモン経を学ぶ場合、幾通りか異なった方法がある。そして信仰を以て学ぶ時、いかなる方法においても、興味深く、豊かに報いられるのである。今ここにそのいくつかを掲げて見よう。

一、或人々はモルモン経を、その起源が聖書に由来している歴史的根底から入ってそれがいかにしてもたらされたものであるかを極めることに特に満足を覚える。聖書は勿論、東半球に住んだ長期間に亘る予言者たちの聖なる記録を編集したものである。これらの歴史家たる予言者たちは、その時代の人々に神の御業と啓示を知らせ、幾世紀にも亘って、福音に対する信仰、愛する天父、御子救主の聖なる使命に就ての証を残して来たのである。

モルモン経もまた同様に幾世紀に及び、神を語り、神のその民に対するはたらきを子孫に伝えた。歴史家たる予言者たちの書いた記録を編集したものである。モルモン経物語りの場所は主として西半球であるがその民は東半球に起源を有しているのである。その記

必要と経験から読み、永遠の教訓を彼自身の境遇にあてはめ、彼を取囲む実生活の観察者である者にとつてモルモン経は、靈感と啓蒙と激励を以ていつまでも語り続けるのである。

以上のような目的はそれぞれ聖文を読む一つの根拠となつていゝ。ニーファイは広汎にイザヤの言葉を用いたことを次のように言つて説明している。そのわけは私たちの学問と利益になるように、すべての聖文を私たちのためと見立てたからである。(ニーファイ第一書十九〇二三)彼は更にその民に告げて、この予言者の言葉を聞け、その言葉を自分たちに言つた言葉と考えよ。(ニーファイ第一書一九〇二三)と言つてゐる。

このような機会の多くの印象的な例の一つとしてモルモン経から参照して見よう。

リーハイとその家族及び従者たちがエルサレムを去つて旅している途中に或事件が起こり、それが異常な結果をもたらした。ニーファイはこの一団の為の食糧を獲得する為に用いていた弓を折つてしまつたので食糧が獲られなくなつてしまつた。困難な時にいつももうであつたように、レーマンとレミエエル及びイシマエルの息子たちは直ちにその兄弟であるニーファイ及び主に對してぶつぶつと不平を鳴らした。そこで驚くべきことには、信仰を以て多くの試験に耐えた年老いた父リーハイでさえ食糧の不足に苦しんで、主なる神に向つて不平を言い始めた。次いでここに無比の愛とけんそんと忠実の模範が示された。ニーファイは主に召され、示現と天使の訪れに祝福された若者であつた。彼は民の指導者として必然的に父の後継者であつた。彼は他の者の信仰がゆらいだ時、当然その指導権を握ることができたのであつた。多くの人が同様の環境において、敢てそうしなかつたし、また多くの人ができる限りその指導権をとら

うとするであらう。

ニーファイは父と兄弟たちの不忠実をいさめ、新しい弓と矢を作つて、石投器と石を携えて悲しみに沈んでいる父の処へ行き、どこへ行つて食物をとらうかとたずねた(ニーファイ第二書十六〇二十三)リーハイは息子の愛と確信によつて新に強くされ、へりくだつて主にたずね、答えを受取つたのである。食物は得られた。リーハイはその民の指導権を把つて、終りの日まで二度と動揺しなかつたのである。

ニーファイは自分自身で主にたずねることができたのであつた。彼の信仰は強かつた。彼は以前と同ように荒野で食物を獲得することに成功した。けれども彼は父を愛し、進んで賢明に忠実に最も大切なことを父に相談したのであつた。

人がその生涯の危機に臨んで、確信とその忠実さを見失わないようにすることは決してたやすいことではない。或人が次のように言つた。私はすべての人の最上のもを信ずる。そしてそのように信ずることが善人を更によくし、悪人を更に悪くさせるのである。

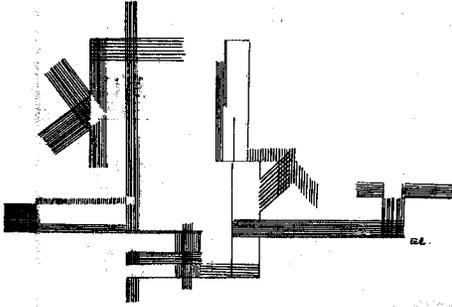
また他の偉大なる作家は言つてゐる。

若し貴方が或人に接する場合、その人のありのままに對処するならばその人はそのままの姿に留るのであらう。

けれども、若しあなたが、その人が、望ましい状態になるように、そしてそうできるように對処するならば、その人は望ましい状態になれる人となるであらう。ゲーテ

モルモン経の中で学ばれる、これらの、またその他多くのこのような教訓を知ることが我々の生活の幸福と健全さのためにいかに大切なことであらうか。

# の はなし より



谷保良子

〈東京北支部〉

皆様お早ようございます。このゴールデンウィークの最後の日を安息日として心清く迎え、日曜学校に集い得、新たな生気を頂くことのできますことを心から感謝いたしております。忙しい日々の連続が、否応なしに私たちの生活の内から潤いを失わせておりました。皆様が恐らくそうであったように、ひさし振りの休日をゆっくりすごすことができ、ただいまは心良い肉体のだるさを覚える位でございます。皆様はいかがお過ごしになりましたか。私は天皇誕生の祝日、晴海埠頭で開催中の国際見本市に行つてまいりました。出品物は機械、電機関係品が多く、見ても私には殆んど解らない専門的な物でしたが、それでも仲々興味深く見て歩きました。非常に大きな機械があちこちのコマに無表情に設置されており、それが動いているのか、どんな製品を作るのか見当のつかない時、どこからか機械の動いている音が聞えてきて、ハハァン動いている、と知ることなどたびたび、又舟程もある機械が幾種の原材を熔粘圧縮等の作業の結果、小さなビーズのようなビニールの玉を作り出しているのを見ては啞然とするなど、驚くことの連続でした。又、直径30種位の太い鉄棒を1.5厘厚さのノコギリでギョギョ

ーコ潤滑油の助けをかり乍ら切断しているのを見ては、身中ズキンズキンと重い圧迫を感じ恐ろしくなつてまいりました。ところでこの一見して無表情だと思つた大きな機械の働きも一人間が一つのスイッチを切ることによつて、ドゴドコ動き出し、次の機械にその動きを伝達することにより更にその次の機械をも動かすのであつてこの働きを見て、偉大なる人間の頭で錦密に計算されたその仕組みが、私をして感嘆させました。そしてこのことから私は、当然の如く万能の神の御働きとその現れにまで思いを転じておりました。見透すことのできないこの大自然の動き、空の物、海の物、陸の物、所有生物の繁殖等、創造の主の御働きを讚美せずにはいられなくなりました。

この宇宙を司どる神は在し、その御意は人々の中に表われ、また人はその御意を行う道具であること、また朽ちることなき永遠さ、確実さ、豊かなる創造物を以つて神をおそれます。アーメン。

# 聖徒の道研究会

——名古屋支部フアイヤサイド——



『聖徒の道』が私たちの教会の機関誌であるということは誰でも知っているが、その内容がどれほど価値のあるものであるか、また、どれほど福音を学ぶに良き指導者となっているかということは、あまりはつきり承知していないのが実情である。

名古屋支部で、フアイヤサイドに「聖徒の道研究会」というプログラムをもって、「聖徒の道」の発展に、真険にとりくんでいるという情報を我々編集部員が得たのが四月にはいつてからでした。以前には金沢支部から、

それは『聖徒の道』発行の意義と目的を解しないも甚だしい。私  
たちは力を合せてその真義を納得し、このすばらしい機関誌の発展  
を真剣に処期せねばならぬ。

わが名古屋支部では、こうした世論が勃然として起ったのをき  
かけとして三月五日のファイヤー・サイドの時間を特に『聖徒の道  
研究の夕』として集まりを持ったのです。

遠山久子姉妹司会の下に、まず上田嘉子姉妹、古芝健三兄弟から  
『聖徒の道』の話をはじめ、殊に内容がいかに知識を求め、親愛を  
向上するに役立たせるものであるかという点について求道者たちに  
理解し得らるるよう説明し、次いで二月号の『予言者のことば』「求  
婚期間と結婚との理想について」を議題として出席者一同の心から  
の話し合いを試みました。

ファイヤースイドにおいて『聖徒の道』を議題に取り上げたのは初め  
での試みであったが、アメリカにおけるファイヤースイドの実状など  
を話したことから、日本の若人たちの関心を呼び起したらしく、加  
うるに『聖徒の道』に毎月載せられる「予言者のことば」や「伝道部  
長メッセージ」をはじめ、教会幹部たちの執筆するものおよび会員  
たちの「証詞」などをしみじみ読むと、誰の心にも明るい灯火がほの  
見える心地のするという点は一同の一致した感覚であったのです。

MI Aなどでも、「予言者のことば」などを取り上げて研究課題と  
するならば『聖徒の道』を通じて他の支部との親睦を増進する機会  
を造ることもなり、ひいては教会が機関誌を発行する意義も明瞭と  
なって来るに違いない。このことに関連して古芝兄弟が、

「聖徒の道委員会」を  
作って、専用の原稿用  
紙まで製作されている  
ということも、知らさ  
れました。

このように、各地の  
支部で活発に、「聖徒  
の道」への関心が高ま  
っている現在、編集部  
としても、うかうかで  
きない状態になってき  
ました。現在の段階か  
ら脱皮して、次の段階  
に進もうとしているわ  
けですが、それには、  
読者の皆様の理解と努  
力がいります。

また「聖徒の道」の  
価格とか、割りあて部  
数にともなう販売の問  
題にも大きな関心がは  
らわれていることを、  
みのがすことができな  
いと思えます。そこで  
そういつた問題を、こ

私は一九五九年九月二日、宣教師の街頭伝道を聴いて初めて末日聖徒イエス・キリスト教会の存在を知りました。そして「聖徒の道」一部を頂だいし、引続き家庭集会で福音を学ぶ機会を得ました。信仰とか悔改めについての真義を知ったのも『聖徒の道』にあつた。「予言者のことば」「伝道部長メッセージ」などからでした。その結果私は十月二十五日にバプテスマを受け、真に幸福な人生を発見することが出来たのでした。

と卒直に語って、『聖徒の道』が広く多くの人たちの眼にふれることを切願していると結んでいました。

実際、今まで会員たちは『聖徒の道』をあまり知らなかったようです。私たちが待ち望んでいる智慧と知識の渊源が、この雑誌の各頁に充ちあふれていることとうっかりしていたのでした。神権者、扶助協会、MIA、日曜学校、こどもの日曜学校など、そのおのこのための「頁」が設けられてあることも改めて認識しなくてはなりません。

この夜の『聖徒の道研究会』はまだ数え上げるほどの成果は得られなかったにしても、極めて有意義な集りであったことは否めませんでした。『聖徒の道』へ記事を送るにはどうしたらよいか、この部門についての支部活動を起したらどうか、などの意見が出ました。他の支部の兄弟姉妹たちから参考意見を伺いたいと思います。なお名古屋支部の『聖徒の道』担当者は第一副支部長成田好和兄弟で、主任八木沼修一兄弟、上田嘉子姉妹、八木沼慶子姉妹の四人となっています。(名古屋支部)

れから少しづつ取り上げていきたいと思いません。

そのために、この頁を次のような方法で、みなさまに使っていただきたいと思います。

「私」あるいは「私たちの支部」では、「聖徒の道」をこのように活用し、こんな効果があらわれた」とか「こんなようにしたらもっとよくなるだろうなど「聖徒の道」の内容の検討、販売に関する問題など、どしどし投稿していただき、みなさんの意見を紹介していただきたいと思えます。今月は名古屋支部に登場願ひ、早速、名古屋の様子を紹介することにします。

(編集部)

テ ー マ	「家族として救いにあずかる」			
日 時	M. I. A	6 月 3 日	P. M.	6 : 30
	一般大会	6 月 4 日	A. M.	10 : 30
場 所	M. I. A	未 定		
	一般大会	三ノ宮農業会館		

西  
中  
央  
地  
方  
部

## 六 月 地 方 部 大 会 予 告

東 中 央 地 方 部	テ ー マ	「汝怠惰なることなかれ。およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することなく、またその衣服も着るべからざればなり。」		
		(教義と聖約 42 : 42)		
	日 時	M. I. A	6 月 11 日	P. M. 6 : 30
	一般大会	6 月 11 日	A. M. 10 : 30	
場 所	M. I. A	日消ホール		
	一般大会	日消ホール		

## C O N F E R E N C E

テ ー マ	「なんじらはキリストに就きて如何に思うか」			
	(マタイ伝 22 : 42)			
日 時	M. I. A	6 月 17 日	P. M.	6 : 30
	一般大会	6 月 18 日	A. M.	10 : 30
場 所	M. I. A	北海道労農会館		
	一般大会	〃		

北  
海  
道  
地  
方  
部

## 東中央地方部 一般大会のお知らせ

「汝怠惰なることなかれ。およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することもなく、またその衣服も着るべからざればなり。」(教義と聖約42章42節)

兄弟姉妹の皆さん、この聖句は私たちが六月十一日に虎の門の日消ホールで開く一般大会のテーマです。

私たちが主の道にある者が大会のテーマとして、この句を味うとき、まず為さねばならぬことは何でしょうか。それは私たちがこの記念すべき会にまず集うことです。そして多くの旧知の、あるいは未知の兄弟たちと共に一堂に会し、主の祝福を受けることです。

そしてもし私たちがこの会に集まったならば、この聖句について更に詳しいお話を聴く機会を得るでしょう。すなわち午前九時より始る神権会、扶助協会のあと午前の大会ではこのテーマを主として物質的な面からスポットを当てたお話がなされますし、午後には霊的な面から解釈されたお話を聴くことができます。

更に今度の大会の特色として、同日午後四時から五時までMIA主催による音楽とスピーチの夕べを楽しむことができます。各地方よりのお友だちと一緒にいわば合同のファイアサイドを催すわけです。各支部よりの楽しい計画が出されることでしよう。

さてもう一つ今までの大会にはなかった新しい試みが計画されています。

それは一般大会の前夜祭ともいふべきもので六月十日(土)の夜に地方部長会主催で座談会が開かれます。皆さんごぞんじの表参道の教会の建物の各室を使用して、各グループ別(日曜学校、MIA、扶助協会、系図委員会)に分れて、共通した問題を持っている各支部の人たちが集って話しあおうという目的で開かれますので、皆さんどうか集ってくださいませよう。またこのグループの他に十

九才以上のグループと十八才以下のグループにも分れます。従って当夜の会は役員、教師はもちろん会員、お友だちの皆さんならどなたでも集うことができます。

## 北海道地方部大会のお知らせ

「なんじらは、キリストに就きて如何に思ふか」マタイ伝二十二〇四十二

このテーマは「時の絶頂」に尋ねられた質問ですが、今日この北海道に住む人々にも尋ねられるものです。

北海道は明治以来ようやく文明人の住める土地として注目を集めた新開の地ですが、百年の歴史は人口五百万をようし益々発展しております。しかし主の眞の教会は、札幌、室蘭、小樽、旭川だけです。イエス・キリストの「救いの計画」は万人のものであります。私たちが北海道地方部に属する者は、このテーマの通りの質問をこの教えを知らない人々にする必要があります。この質問によって多くの人々は貴方自身に興味を持ち、色々なことを尋ねるでしょう。貴方はその答えを地方部大会に出席することによって得られます。

指導教会では指導者の性格について学びます。また討論し皆さんの研究された結果を発表します。MIAは金と緑の舞踏会ですので各支部の会員と親しく交わることができます。神権会、扶助協会では、教会、家庭、社会においての「キリストの証人」について話されます。一般大会ではキリストの教えを実生活に反映させようとのテーマで各支部一名ずつ話をします。

今年より年四回大会が開催されるようになったので、六月大会は札幌以外の地で聞きたいと努力して来ましたが、会場の都合で再び札幌ときました。しかし地方の皆さん頑張って参加してください。皆さんの支部所在地で開催できる日がきっと来ます。

(西地方部からはくわしい報告が入りませんでした)

## 東中央地方部 一般大会のお知らせ

「汝怠惰なることなかれ。およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することもなく、またその衣服も着るべからざればなり。」(教義と聖約42章42節)

兄弟姉妹の皆さん、この聖句は私たちが六月十一日に虎の門の日消ホールで開く一般大会のテーマです。

私たちが主の道にある者が大会のテーマとして、この句を味うとき、まず為さねばならぬことは何でしょうか。それは私たちがこの記念すべき会にまず集うことです。そして多くの旧知の、あるいは未知の兄弟たちと共に一堂に会し、主の祝福を受けることです。

そしてもし私たちがこの会に集まったならば、この聖句について更に詳しいお話を聴く機会を得るでしょう。すなわち午前九時より始る神権会、扶助協会のあと午前の大会ではこのテーマを主として物質的な面からスポットを当てたお話がなされますし、午後には霊的な面から解釈されたお話を聴くことができます。

更に今度の大会の特色として、同日午後四時から五時までMIA主権による音楽とスピーチの夕べを楽しむことができます。各地方よりのお友だちと一緒にいわば合同のファイアサイドを催すわけです。各支部よりの楽しい計画が出されることでしょう。

さてもう一つ今までの大会にはなかった新しい試みが計画されています。

それは一般大会の前夜祭ともいうべきもので六月十日(土)の夜に地方部長会主催で座談会が開かれます。皆さんごぞんじの表参道の教会の建物の各室を使用して、各グループ別(日曜学校、MIA、扶助協会、系図委員会)に分れて、共通した問題を持って、各支部の人たちが集って話しあおうという目的で開かれますので、皆さんどうか集ってくださいませよう。またこのグループの他に十

九才以上のグループと十八才以下のグループにも分れます。

従って当夜の会は役員、教師はもちろん会員、お友だちの皆さんらなどなたでも集うことができます。

## 北海道地方部大会のお知らせ

「なんじらは、キリストに就きて如何に思ふか」マタイ伝二十二〇四十二

このテーマは「時の絶頂」に尋ねられた質問ですが、今日この北海道に住む人々にも尋ねられるものです。

北海道は明治以来ようやく文明人の住める土地として注目を集めた新開の地ですが、百年の歴史は人口五百万をようし益々発展しております。しかし主の真の教会は、札幌、室蘭、小樽、旭川だけです。イエス・キリストの「救いの計画」は万人のもので、私たちが北海道地方部に属する者は、このテーマの通りの質問をこの教えを知らない人々にする必要があり。この質問によって多くの人々は貴方自身に興味を持ち、色々なことを尋ねるでしょう。貴方はその答えを地方部大会に出席することによって得られます。

指導教会では指導者の性格について学びます。また討論し皆さんの研究された結果を発表します。MIAは金と緑の舞踏会ですので各支部の会員と親しく交わることができます。神権会、扶助協会では、教会、家庭、社会においての「キリストの証人」について話されます。一般大会ではキリストの教えを実生活に反映させようとのテーマで各支部一名ずつ話をします。

今年より年四回大会が開催されるようになったので、六月大会は札幌以外の地で聞きたいと努力して来ましたが、会場の都合で再び札幌ときました。しかし地方の皆さん頑張って参加してください。皆さんの支部所在地で開催できる日がきっと来ます。

(西地方部からはくわしい報告が入りませんでし)

## アロン神権

## ブランチャティーチング レッスン

## 「高価なる真珠」 六月用

「高価なる真珠」という表題は何かふつうの価値以上のものを暗示しています。この名前にはイエスがお話しになった「たとえ話」(マタイ伝十三〇四十四―四十六参照)の中からとったものであって、この「高価なる真珠」という表題は、この本の真価を適切にあらわしています。わが教会の標準聖典の中で、この本は他の三種類の聖典(聖書、モルモン經、教義と聖約)ほど大部なものではありませんが、それでも貴い真理が一ぱい誌してあります。その内容は(一)モーセの書(二)アブラハムの書(三)ジョセフ・スミスの著(四)末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条の四つの部分からなり立っています。

モーセの書は、モーセが受けた啓示の近代記録であって、その中には地球の創造とあらゆる形態の生命がその上に置かれた次第を語っています。その中の記事から、私たちはアダムとその義しい子孫たちは地上をあてどもなくさまよい歩くさすらいの民ではなくて、高い英知と教育のあった人々であることがわかります(高価なる真珠、モーセの書六〇五―六参照)。アダムは人類の太祖となすぐれ

た名誉を受けるぬうちのある気高い「神の子」として描かれています。またこの書の中では「先在の原理」が明らかにされていて、私たちに、イエスもサタンも他の者もみんなこの地球が創造される前に靈であつたことを教えています(モーセの書一〇三十二、三十三、四〇一、三、四、五〇二十四参照)。また私たちに一番慰さめを与える特別な記事の一つは、地球が創造される以前に天上の大会議があつて、そこで人間の自由意志が確立され、アダムの「墮落」おちること」の目的が知らされた記事であります(モーセの書四〇一―四、六、八―十二、七〇三十二参照)。

アブラハムの書もまたすぐれた教えがのっている書であります。その中には「黒人―ニグロ」の謎が解明されており、また「黒人―ニグロ」が神権を帯びる権利をなぜ与えられないかというわけもはっきりと誌してあります(アブラハムの書一〇二十五―二十七)。

アブラハムの書には、宿命という正しくないまた根拠のない原理が間違っている証明がしてあり、その代りに「子任」という正しい合理的な原理が立ててあります。これによれば、神はこの地上における指導者として、第一の位(靈としての存在)にいるうちに充分

価値のあることを証明した者をあらかじめお選びになるのであります。しかしながら、本来に任命を受けるには、その者が全く強制されることなしに、引きつずき従順であり、何事も心から進んで為し、自ら価値のあることを示さなくてはなりません（アブラハムの書三〇二十二、二十三参照）。

またアブラハムが天文の知識をもっていたことは注目すべき価値があります。宇宙を支配・縮制する中心があるという彼の考えは、現代最高の天文学者たちの学説とよく調和しております（アブラハムの書第三章参照）。

ジョセフ・スミスの著の中にはジョセフ・スミスの自伝からの抜き書きがのっています。これは非常に貴重なものであります。もしも、予言者ジョセフ・スミスの受けた最初の示現のことが聖書の中にのっていたとするなら、それよりも顕著な記事といえは主イエスの誕生と生涯と使命とだけでありましょう。ジョセフ・スミスに父なる神と御子がお現われになったという記事にならぶほどのものはどの聖典の中にも見当りません。

信仰箇条は、近代における宗教文書の中で比べるものないほどすぐれたものであります。この信仰箇条の中にある十三ヶ条は福音

の真髄であります。この文書は、宣教師たちが求道者に研究の興味を起させる最も人気のある「なかだち」の一つであります。

まことに「高価なる真珠」は、いろいろな疑問に対して、聖書のどこを探しても見つからない知識を与える源であります。

### 「決心と悔改め」 七月用

人間は年が改まると、今年こそ新しい決心をするという話を合います。なぜ新年を待つてはじめて自分を改良する手段をきめるのかよくわかりません。大みそかの真夜中になるといふと、自分のもっている悪い習慣に勝ちたい、または自分の悪い生き方を改めたいと思っている人々に、無限の力が突然与えられると思っている人があるようであります。新年を迎えるに当って新しい決心をするということは何も悪くはありません。しかし、新しい決心をするやり方を少々変える必要があります。私たちの中には希望的観測をしすぎるという間違いを犯している人があります。私たちはしなくてはならないということを知っていてもなかなか実行しません。私たちはもっと現実的でなくてはいけないのであります。たとえて申しますと、もし七月に

私たちが征服すべき弱点を見つけたとしますなら、実行を起すために来年の一月まで待つ必要がどこにありましょう。

年の始めに当って新しい決心をしなくてはならないという理由はどこにもありません。毎日毎日が、自分を改良する新しい機会であります。毎週の始まりは、何か新しい目標を立てる時でなくてはなりません。毎月の「私たち」は自分の進歩を測るよい時であります。毎年の終りに当って、私たちが目標に達したかどうかをくらべてみるのは、まことに時機を得ております。私たちがちよつと落ちついて過去をふり返って反省するときには、もつとよくなるなくてはならないという必要を強く感じさせます。それから将来をながめることによって私たちは正しい見通しをつけることによつて私たちは正しい見通しをつける。易い、すつとよい立場に立つております。このように自分自身というものを見たしてみると、自分がどこにいないかと言わないかに対して現在自分がどこにいるかと言うことがはつきりきまるにちがいません。

新しい決心をしたいという望みは、悔改めの靈氣スピリットによつてはげまされます。このような心の状態になるには、自分が不完全である

ことを神に告白して、私たちの許しとそれらの不完全さにうち勝つ力とを神にねがい求めてなくてはなりません。新しい決心がよくつかないという一つの理由は、時々悔改めの靈スピリット気が欠けていることであります。決心は悔改めを実行するまでの過程の中にある五段階の一つにすぎません。第一段は悪いことを認めることであります。第二段は犯した罪を後悔することであり、第三段は過まことに對してつぐないをしようと思うことであります。第四段は前よりも良い生活をするという固い決心をすることであり、そして第五段すなわち最後の段階は弱点を征服して前よりも良くなることであります。

私たちは必要が生じたなら、一月であろうと七月であろうと、直ちに新しい決心をするべきであります。一方において、毎年の始めを、私たちが信仰と愛と知識と神の国に関することの理解とを増す長期の目標を立てる時にいたしましょう。もし私たちがこの様式に従うなら、昔イスラエル人の中の義しい人々にたまわった約束を私たちにもたまわるにちがいありません。すなわち、

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい靈をあなたがたに授ける……」(エゼキエル書三十六〇二十六)

## メルケゼデク神権

### 第一長老定員会の計画

今まで第一長老定員会長々会の第二副会長の席が欠けていました。去る四月廿三日に坂井圭兄弟が正式に聖任されました。これで長老定員会の活動も以前にも増して活潑になつて行くことと思ひます。

### 神権者の執行する儀式

バプテスマと聖餐式の祝禱とを除き、神殿以外で神権者の執行する儀式に何ら一定の様式はない。すべての儀式はイエス・キリストの御名と神権の権能とによつて執り行われる。これらの儀式を執り行う兄弟たちは聖靈の導きを得るような生活を営みどの儀式においてもそこで行われることを詳しく述べるに當つてできるだけ適切な言葉を用いるよう努めた。また聖靈によつて心に入つた考えを伝える

に當つてできるだけ適切な言葉を用いるよう努めねばならない。

メルケゼデク神権を帯びている者は、教会の定めた方針に従つて次の諸儀式を執り行う能力があり且つそれにふさわしい者でなくてはならない。

- 一、小兒の祝福と命名
- 二、バプテスマと確認
- 三、神権の授受と神権の内の職に按手聖任すること

- 四、灌油に用いる油の聖別
- 五、病者に灌油をする儀式

- 六、墓地の奉獻

尚儀式の執行方法については大会の神権会あるいは個人的な御質問によつてお答えいたします。

## 七月練習の讚美歌

## 一七六番「祈りは

魂の」

長い歌詞の歌ですが、時間の関係やまた集会の都合で短い方がいい時は、三番なり、四番なりでやめても結構です。楽譜はあまりむずかし所はないと思いますが始めに高い音でソプラノは出ますので気をつけてください。来月の練習の讚美歌は第二三番「恐れず来れ聖徒」です。

## 初等日曜学校七月

## 練習の讚美歌四八番

「雨」

スタックカート(・)がついていますから完全にできないまでも軽く歌う感じを出すようにしてください。一段

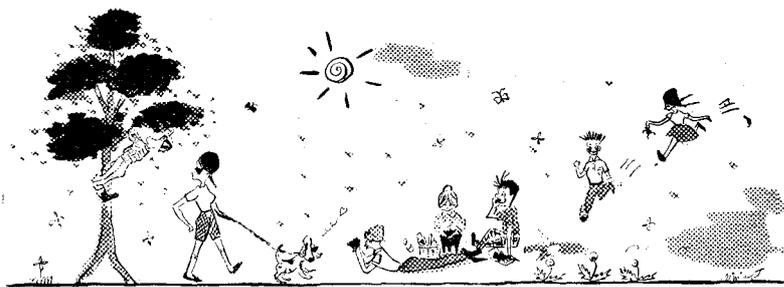
目の最後二小節を憶えると二段目の終りもそのように歌いたくなりますから気をつけてください。「一番最後の「ガラスまど」は音の高低がはげしいのでよく練習してください。

八月の練習の歌は四一番「荒野を過ぎて」です。

## 教師の皆様へ

「レッスン計画表」について

「聖徒の道」二月号に今年の二月から六月までの「レッスン計画表」を載せましたがこの計画に従って進んでいる支部は余り多くはないようです。その大きな原因としてテキストが遅れて着いたためというのが多いようですので今年はそのようなことがないように十分注意したいと思っております。少くとも十二月中にお手許に届くように。現在この計画表よりかなり遅れている支部では、関連のあるようなところを二課づつ進むとかしてなるだけ早くこの計画表に追いついてください。最後になってから急いでかけ足したりしてあわただしかったり、中途でしり切りとんぼになつてレッスンがまとまらないものになつたりしないよう今から準備しておいてください。



# 各代大管長と教会略史



## 1. ジョセフ・スミス・Jr

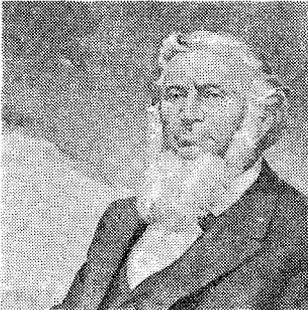
1805. 12. 23. 生れる

(バーモント州シャカン)

1832. 大管長になる

1844. 6. 27. 殉教

(イリノイ州カーセージ)



## 2. ブリガム・ヤング

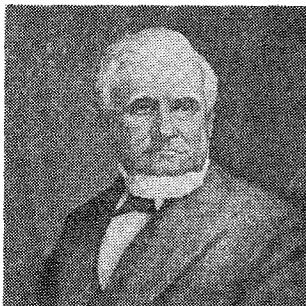
1801. 6. 1. 生れる

(バーモント州フィチンハム)

1847. 大管長になる

1877. 8. 29. 死亡

- 1820 ジョセフ・スミス Jr, 神に会う
- 1823 モロナイ天使、彼の前に現れる
- 1827 モルモン経の金版を受取る
- 1829 小神権、大神権回復される
- 1829 3人及び8人のモルモン経の見証者
- 1830 モルモン経出版される
- 1830 キリストの教会回復される
- 1830 最初の宣教師派遣される
- 1832 南北戦争(1861) 予言される
- 1833 智恵の言葉、啓示される
- 1835 12使徒及び70人が選ばれる
- 1835 教義と聖約、出版される
- 1836 カートランド神殿献堂される
- 1841 水野忠邦、天保改革を行う
- 1842 アブラハムの書出版される
- 1842 扶助協会組織される
- 1846 ノーヴーから出る
- 1847 ソルトレークに着く
- 1848 かもめの飛来
- 1849 日曜学校開かれる
- 1853 ペリーの来日
- 1867 大政奉還、王政復古
- 1869 YWMI A組織される
- 1870 タバナックル・クワイア組織される
- 1875 YMMI A組織される
- 1875 ブリガム・ヤング大学の創立



### 3. ジョン・テイラー

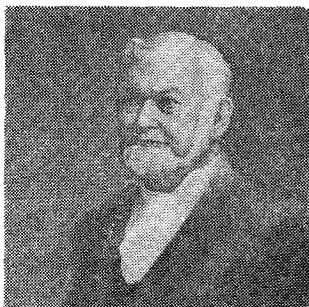
1808. 11. 1. 生る

(英国ミルンソープ)

1880. 大管長になる

1887. 7. 25. 死亡

- 1878 初等協会組織される
- 1890 多妻結婚の禁止
- 1893 ソルト・レーク神殿献堂
- 1894 系図協会組織される
- 1901 日本伝道部開設
- 1914 第一次大戦治まる
- 1920 国際連盟の成立
- 1936 福祉計画大規模に行われる
- 1939 第二次大戦治まる
- 1958 ハワイに教会の大学創立
- 1958 ロンドン神殿献堂
- ? 日本神殿献堂
- ? 日本に教会の大学創立  
(モルモンに浪人いなくなる)



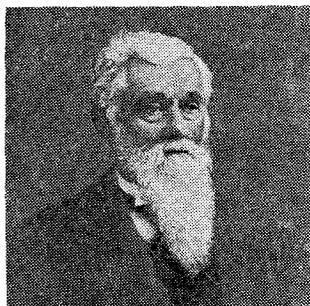
### 4. ウイルフォード・ ウッドラフ

1807. 3. 1. 生れる

(コネチカット州)

1889. 大管長になる

1898. 9. 2. 死亡

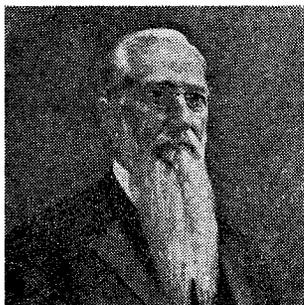


### 5. ロレンズ・スノー

1814. 4. 3. 生れる

(オハイオ州)

1901. 10. 10. 死亡



**6. ジョセフ・F・スミス**

1838. 11. 13. 生れる

(ミズーリ州ファーウエスト)

1918. 11. 19. 死亡

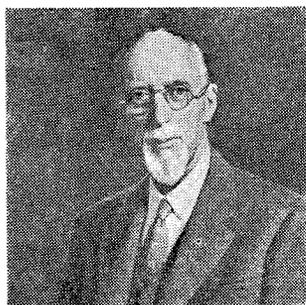


**7. ヒーバー・J・グラント**

1856. 11. 22. 生れる

(ユタ州ソートレーク)

1945. 5. 14. 死亡



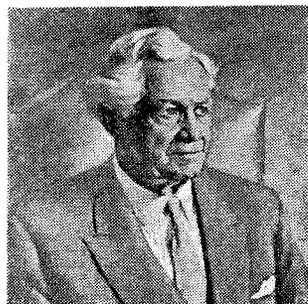
**8. ジョージ・**

**アルバート・スミス**

1870. 4. 4. 生れる

(ユタ州ソートレーク)

1951. 4. 4. 死亡



**9. デビッド・O・マッケイ**

1873. 9. 8. 生れる

(ユタ州ハンツビル)

# 日 曜 学 校

## 1961年7月～12月 レッソンの計画表

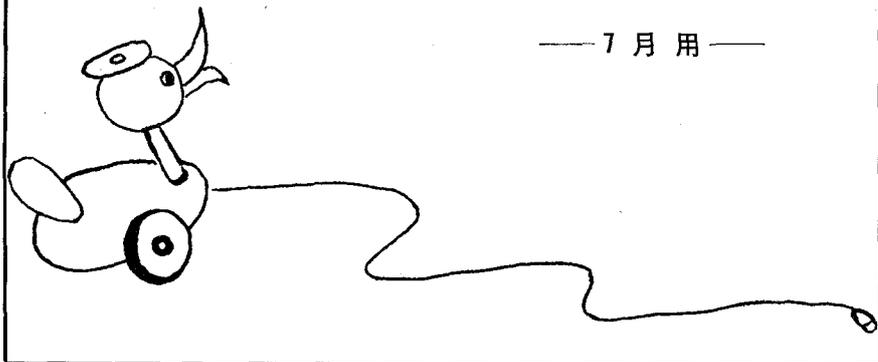
月	日	大人の日曜学校				子供の日曜学校		
		Aコース (12～14)	Bコース (15～17)	Cコース (18才以上)	系図コース	初 級	中 級	上 級
		キリスト の生涯	古代アメリ カの生活	完成への道	家 督 権 の 祝 福	霊的成長 (I)	宗教と生活 (II)	モルモン 経物語
7	2							
	9	25章	25章	25章	25章	25章	25章	49章～50章
	16	26	26	26	26	26	26	51～52
	23	27	27	27	27	27	27～28	53～54
	30	28	28	28	28	28	29	55～56
8	6	29	29	29	29	29	30	57～59
	13	30	30	30	30	30	31	60～62
	20	31	31	31	31	31～32	31～33	63～64
	27	32	32	32	32	33	34	65～66
9	3	33	33	33	33	34	35	67～68
	10							
	17	34	34	34	34	35	36～37	69～70
	24	35	35	35	35	36	38	71～72
	10	1	36	36	36	36	37～38	39
10	8	37	37	37	37	39	40	75～76
	15	38	38	38	38	40	41～42	77～78
	22	39	39	39	39	41	43	79～80
	29	40	40	40	40	42	44	81～82
	11	5	41	41	41～42	41	43	45
12								
19		42	42	43	42	44	46	85～87
26		43	43	44	43	45	47	88～90
12	3	44	44	45	44	46	48	91～92
	10	45	45	46	45	47	49	93～94
	17	46	46	47	46	48	50	95～96
	24	47	47	48	47	49	51	97～98
	31	48	48	49	48	50	52	99

註 9月10日、11月12日は東中央地方部では大会がありますので空けておきました。

他の地方部大会の開かれる日時によって調整して下さい。

7月2日は各支部大会のために空けておきました。

— 7 月 用 —



全国の子供の日曜学校責任者及び教師の皆様いつも、あなたがたの愛の奉仕によって、素晴らしい子供の日曜学校が開かれていることと存じます。今月より毎月の聖徒の道に、

子供の日曜学校関係欄として二頁の予定で掲載されることになりました。与えられたこの二頁をフルに活用して、よりよい子供の日曜学校とするために皆さまの御協力を、心から望んでおります、また紙上を通して皆さまに少しでもお役にたつことができれば、ほんとうに幸せと存じます。それらの頁は次のような事柄に使用するつもりです。

(1) 従来通り責任者及び教師の皆様へ、レッスン、その他に参考になるようなことを、インスタラクターより翻訳して載せてまいります。

(2) レッスン予定表

やはり今まで通り五ヶ月分位までまとめて大人と一緒に欄に載せます。しかし、この通りに進行している支部は、あまりないのではないかと思いますが、どうか現在のまま予定に合わせるよう努力して進んでください。近いうちに新しいレッスン計画をたてる予定ですゆえ。

(3) 練習の讚美歌

今まで通り中央支部の南城悦子姉妹に、御指導をして頂きます。

(4) 伝道部長からの指示、よりよい子供の日曜学校のための諸提案、子供の日曜学校に関する質問、解答など。

貴重なこれらの頁を生かすも殺すも、我らの手にその責任はあると思います。重ねて皆様の御協力をお願い申し上げます。重ねて皆様の御意見、御質問を心からお待ちいたしております。

伝道部子供の日曜学校責任者

鈴木百合子

住所 東京都練馬区春日町二丁目

二〇八六の四

始めて子供の日曜学校に出席した子供たちに  
対して皆様のとるべき態度

(1) 前から来ている子供たちに紹介して  
いますか？

(2) その子の隣に腰をかけますか？

(3) 握手をしますか？

(4) 話しかけますか？

(5) 笑顔を見せますか？

(6) 「だっこ」してあげますか？

(7) 頭をなでてあげますか？

(8) 全然関心を示しませんか？

始めてこの会に出席した子供は（年令を問わず）一種の恐怖感をいだいております。始めの場所、始めて見る先生の顔、そしてお友だちと、全てが彼らにとっては何か不安を感じさせるのです。いちがいに、そうであるとは云えないかも知れませんが、その気持ちを殆ど百分持っていると考えて間違いないと思います。しかし友だち同志で出席した子供たちは、すでに知っている仲間と一緒にいるという気持ちからその態度は、前者とは、おのずと異ってまいります。彼らの一番最初の経験がより楽しい意義あるものであるよう、先生方にお願ひしたいことは新しく入って来たる子供たちを皆さんに紹介してあげて欲しいのです。（すでに実行している支部があると思いますが）名前の他に学年とか、年令とか、好きな人は誰とか、好きな花は何、食物では、e t c、を添えてみてはいかがでしょう。ではいつそれをするかが問題となつてまいります。練習の歌を始める前がよいでしょう。紹介が終わってから皆んな揃って新しい歌を唱いましょう。そしてできるだけ早く前から来ている子供たちの中に溶け込めるよう、戸を開けてあげてください。同時に先生方も彼らとよいお友だちになつてくださ

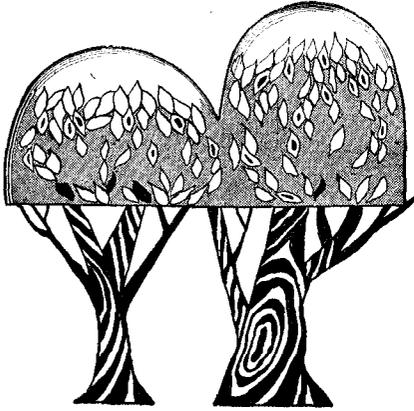
い。小さな子供たちをだっこしたり、頭をなでてあげたり、隣に腰をかけたたり、身近かに接近することによってあなたがたは子供たちに安心感と信頼とをいだかせるものです。これらは、ほんの一例にすぎませんが、まだまだ、幾つでもその方法はあると思います。また忘れてはならないことは笑顔です。彼らにあそこはいい所だな、またこんども行つてみようと思わせることができる様、特別の配慮をほらってください。



### お祈りを子供自身に任せましょう

祈りの重要性は皆様すでに周知のことでございます。子供たちにも、その方法を教えてあげましょう。必ずしも祈りの順序に従わなければならぬと云うことはございません。心から素直に神さまに対する感謝の気持ちを言葉で表現できましたら、それで充分です。次のような会話を子供たちとかわしながら教えるのも一つの方法であります。（母親を対象としましたが、母親の無い子供が同席してい

るかも知れませんが注意してください。その子だけ淋しい思いを味あわせないように）「皆さん、お母さんを好きですか？」「お母さんをお母さんに、なんと呼びますか？」「お母さんは皆さんが病気の時に色々と看病してくれませんか？」「その時に、お母さん、とってもやさしいな、ありがとう、と思いませんか？」「遠足に行く時、あの果菓子と果物を買って来てネと、お母さんにお願ひしませんか？」「お母さんから、お父さんにお願ひしてもらって、何か買ってもらったことなんかありませんか？」お話だけでは、すぐ忘れられがちですから目と耳を使って効果的に教えます。フランネルボード、紙芝居等、多に利用してください。お祈りの方法を教えたあとで、子供たちの祈りを聞く時に大人のそれよりも、主の御心になつたお祈りをしてくれまます。できるだけ、子供に先生がついてお祈りするのを、さけてください。（先生の云った言葉通り祈ること）但し、幼児は例外です。皆様の賢明なる教授法を望みます。常に先生方は子供たちの指導法を研究する様努めてください。ホラあなたの隣に、それらに協力しましょうと、素晴らしい教材がころがっているではありませんか！



# MIA

## リーダー

7 月 用

### MIAの集会に関する提案事項

先月号に引き続いて今月号はもう少し具体的なプログラムの作成に就いて書いてみたいと思う。MIAの計画表は毎年々、また月毎に変わるのが普通であるが、大体次に述べる事項は概ね変わらないものである。

#### 祈禱会

一、MIAの始まる三十分前に開かれる（通常は六時三十分からである）。

二、司会者（YM及びYW MIAの両会長の孰れかを交互に選び、集会の管理者とプログラムを確認する）。

三、霊的な話（前以って決められてあった役員が三〜五分以内で語る）。

四、出席の状態（先週の祈禱会とMIAの記録を発表して承認を受ける）。

五、歓迎人を二名以上選ぶ。

六、祈禱（閉会后六時五十分までに礼拝堂へ入る）。

なお歓迎人は集会場へ来た人たちを上手に誘導して着席してもらおう。特に始めて訪問したお友だちは兎角すると後部の席に集まり易いので注意して欲しい。前奏曲の始まる六時五十五分までには全員が着席している筈である。

#### MIAの集会（七時〜八時四十五分）

一、司会者は穏かな表情の中にも尊敬をもたなければならぬ。タガの緩んだような司会者の言動は一瞬にしてMIAを縮まりの無い集会にしてしまう。

## 二、開会の歌 三、祈 禱

三、テーマの朗読(司会者が最初に提唱する)  
四、短いプログラム(各活動のグループが順番に受け持つ。)

\*五、レッスンの為の分級(七時十五分～八時)

\*六、各グループの活動(八時～八時四十分)

七、閉会行事(八時四十五分)

(注)\*印の五、六は一般活動の時には無いプログラムの進行において時間のずれは大きな支障となるから、時間を無理なく割り振って欲しい。閉会時刻を延ばすことはあらゆる点で好ましくない。発表事項は貼り紙か黒板を利用し、沢山ある時にはプリントにして出すようにしたい。

反省会(八時五十分～九時)

今晩のプログラムに参加した人たちは全員出席して欲しい。短い時間であるが記憶の新しいうちに行う方が効果的である。この反省会を行なっている支部はあまり無いようであるが、是非共闘してもらいたい。

扱て全ての集会の終った九時には、集会場のどこにも残っている人たちは誰もいない筈である。集会後雑談をして九時過ぎまで留まる事は、明日からの生活を考え、また家族の

心配を慮って絶対に避けなければならない。警え教会の用であろう共、それを正当化する何物もない筈であるから。(佐藤記)

## 七月二十日 「スポーツの夕べ」

七月の星空は美しい。屋外でのスポーツを大いに楽しもう。支部スポーツの指導者はこの夜のプログラムに責任がある。全プログラムの計画ができ上ったら会長会に提出し、認可を受け、その後準備に取りかかるべきである。また特別に実行委員を選んで良いし(Mメン・Gリーナー各一名、エンサイン・ローレル各一名)あるいはMIAの全役員がその任を取っても良い。先ず手引(付録三八頁)を読むことにしよう。

扱て、この夜のプログラムは単なるスポーツの夕べでないことがおわかりになったことと思う。即ち、私たちが心の中に銘記してい

るべきこと、そう、開拓者たちのあの苦難に満ちた移住である。この平和な、信仰を持つことに何の迫害も与えられない世の中にあつて、時折わすれられようとしているあの苦しみの旅、私たちはもう一度、各自の胸の中で当時の人々のことを想いおこしてみるべきなのです。

責任者はこれらのことを頭において計画を立てること。夜であることも共に考え合わせることであつて、時間も必ず通常のMIAと同よう八時四十五分までに終らなければならない。七月二十四日に特別に開拓者記念日の催を開かない支部において、この日の「スポーツの夕べ」に、ゲームをやったり、開拓者のコスティュームをつけてスクエア・ダンスや、フォークダンスをやっても良い。またこの夜にリフレッシュメント(軽飲食)を出しても良い。(田中記)

## M I A

### 服装の標準

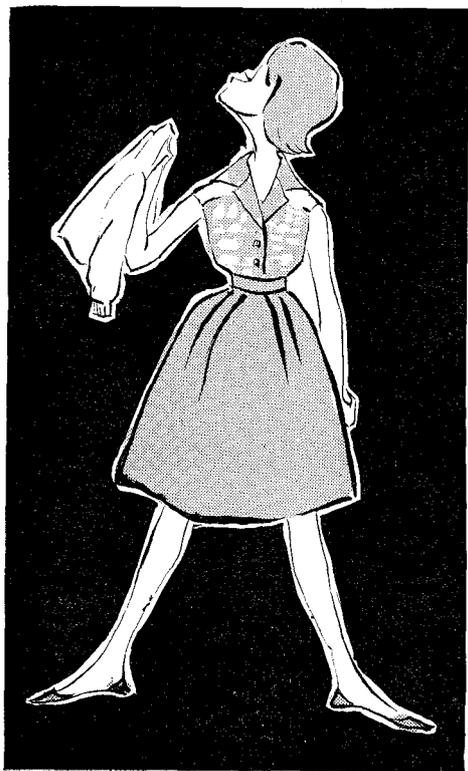
## M I A 服装の標準

前号で服装の標準を簡単に述べたが、色々と質問があつたので(特に女子の)いくつかのスタイル画によって補足説明をします。衣服の元来の目的は、人間が自

己の肉体を自然の色々な害から守ることにありました。人々の心の中に美を見つけ出し、これを創り出す能力があって、人類の進歩と共にその能力は色々な文化（現在、芸術など）と言われているものを生み出して来たのです。衣服もその時代時代によって異なった機能、異った装飾、異った色を創り出して来ましたが、昔も今も変りなく「美しい衣服」と言われるのは清潔で、余分の飾りもののない健康的なものを指していると思います。時代の感覚はその人の趣みを左右しますが、デザイナーの創作したものが必ずその人を美しく見せるとは限らないものです。唯流行にとらわれずに、自分を一番健康的に清潔に見せるものを選ぶべきであり、大切なことは、衣服はその人の人格を表現するものであることを断において選択すべきであると言うことです。また「場と言葉使い」と言うことがあるように「場と衣服」と言うことが言えます。衣服には各々異った目的や機能を持っているものであるから、それを使いわけることが他人に対する礼儀です。その点から考えて教会と言う場に合った衣服を着用することが、教会に集う者の礼儀だと思えます。即ち、私たちは避暑の目的の為に教会へ行くわけでは

キモノ・スリーブ（原型ショルダー・ポイントより五厘位下ったものはM・I・Aにおいて許可されています。スリーブレスの時は上にはおるものを持てます。）

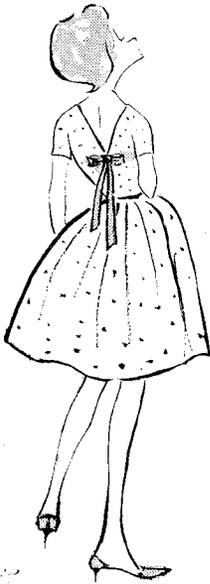
シューミーズ・トップのブラウスやトリアドル・パンツは避暑へ行く時にネ



ないから、トリアドル・パンツやシュミーズ・トップのブラウス、あるいは色のはでな衣服は失礼にあたるわけですから避けるべきです。夏になると、時々MIAの定例集会で男の人の丸首シャツ姿を見うけますが、丸首シャツは、いかに白くて清潔であっても、下着を集会の席に着て出るとは恥ずべきことです。また日曜学校（聖餐会）とMIAでは集会の目的が少し違いますからMIAに於いては「場と衣服」と言うことを頭において楽しい衣服を選んでさしつかえありません。唯、十二使徒マークE・ピーターソン長考の次の言葉をわすれないでください。

「肉体の神聖さは、性の神聖さに直接関連を有するものであるにも拘らず、なぜ自己の体をそれ程軽視するのか。なぜ神の宮であるこの神聖なもの（体）を、公衆の目の前に、さらけ出すのか。婦女子の皆さん、若し、皆さんがダンス会場やその他の場所、自分の体を露出して行動するような時は、皆さんは、大きな不義を犯しているのであり、皆さんのお友だちの気持をも傷つけていることになるのだと言うことを覚えなさい。」

ではモルモンの聖徒である我々は正しい衣服を身につけるよう心がけましょう（田中記）



バックレスも避けましょう。



教会のパーティーでは、ストラップレスのイブニングやタイトのイブニングは避けましょう。



大きく開けたネックは街着にネ。

## 扶助協会

「すべてのものが回復されるにちがいない」

それであるから、ねがわくは神が復活の力をもつてあなたたちを肉体の死からよみがえらせ、またキリストの身代りの贖罪の力をもつて、あなたたちを永遠の死からよみがえらせたもうて、あなたたちが神の永遠の王国に迎え入れられ聖い恵みによって神を讚美するように。アーメン。

二一ファイ第二書、一〇二十五

今年もまた新緑の季節になって、木々の緑はてり映え、美しい花が山にも野にも美しさをきそっておりです。神のみことばである聖典を信じ、予言者の約束を信じ、救い主の仰せになったのちのみことばを信じている人々には永遠の真理がはつきりとおわかりです。この人々には、昔ヨブが復活の約束を知って「われ知るわれを贖う者は生く、後の日に彼かならず地の上に立たん。わがこの皮この身の朽ち果てん後われ肉に於て神を見ん」(ヨブ記十九〇二十五

・二十六)と言つて喜んだように永遠の真理が明らかになるのであります。

このことばは多くの人々になくさめを与え、多くの人々は心の中で、義しい者は主がよみがえりたもうたように復活をするにちがいない、この世の生活は永遠に存在する人間にとつて仮の宿りのひとこまにすぎないことを自分はたしかに知っているのだと言いました。私たちはこの世でいとなむ家庭を愛さなくてはならない、また私たちは山や海や砂漠や牧場に対して感謝をしなくてはならないといふことは、私たちの永遠の生命にとつて全く自然でありまた調和をしております。それは主なるイエス・キリストがこの地球上へ再臨をなさつて親しくすべおさめたもうとときに、地球自身が更新されるにちがいないといふ約束があるからであります。私たちは「それ神はその独子をたもうほどに世を愛したまへり、すべて彼を信する者の亡びずして永遠の生命を得んためなり」(ヨハネ伝三〇十六)といふことをよく知っております。

それでも、強い信仰をもつてい

をいただいている人たちでさえ、愛する者に死にわかれたときには、何ものによつてもなぐさめられない淋しさを感じ心細さを感じるものであります。愛する者と別れるときには、昔ラケルが子供たちを失つたつて泣き悲しんだように泣き悲しみ、長い月日がたつて心の傷がすっかりいやされるまではその悲しみを忘れることができません。このような悲しみをいやすためにこそ、私たちの栄えある將來を思い起さなくてはなりません、また私たちが永遠の住居をめぐまれることを考えなくてはなりません。このような信仰はいろいろな時に多くの人々が言い表わしております。なぐさめとはげましのことばは、子供たちの口からも、若い人々の口からもまた大人の人々の口からも聞かれるであります。学のある人々はいろいろ同情のことばをかけ、つつましい人情のその人たちのもつて固い信仰に根ざした心からのことばで熱心に話しかけるであります。

この教会の初期のころ、荒原とした平原をわたつて開拓者が旅をして行つたときに、多くのおきな児が死にました。或る婦人はその

時自分のおさない男の子をなくしましたが、それでもその婦人はなくなつた男の子が自分と共に暮した数年の年月、その何ものにもかえ難い貴い年月に對して、また愛するその男の子から「お母さん」と呼ばれる特権をもつた心から對して、天の父なる神さまに心から感謝をささげることができました。

悲しみに暮れていたその時、その婦人の夫は「あの子はもうどうしても私たちのところへ戻つてはいない。しかし、私たちはまことになくあの子のところへ行くんだよ」と言つてなぐさめました。

夫を失つた或る寡婦は、それまでの年月つれあいとして善い人を与えられたことに對して感謝を言ひあらわすときに、また誓約により二人はまた相逢つて永遠に結ばれるにちがいないことを知つていふことに對して感謝を言ひあらわすときに、夫のなくをおぼえることに對して心のやすらぎをおぼえることができました。また母を失つた子供は、「聖約の子」として恥しくない行いをせよと教えた母の教えを實行しようと努めるときに心のなぐさめを見出しました。或る(三五八頁に続く)

第二部 時満ちたる神権時代の開始

第十一章 教義と教会管理に関する啓示

(千九百二十九—千九百三十年)

一、見証者にたまわった啓示。 教会の組織ができる前に、教会の組織に関係のあることが啓示されるのは絶対に必要であった。啓示が下ったのは見証者たちが古代の記録をのせた版をみた時と千八百三十年四月六日との間であった。最初の啓示(教義と聖約第十八章)はフェイヤットに於てジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマーの三人にたまわった。それは十二使徒が召される約六年前であったけれども、この神権の時代に於て選ばれるべき十二使徒の召しを知らせる啓示であった。その

啓示には「完全なる福音に則り<sup>つと</sup>キリストの教会を創立することに關し」いろいろの指図がしてあり、またモルモン經には「わが教会の基礎とわが福音とに關することはすべてその中に誌されたり」わが教会が組織されるとき、福音の基礎の上に建てられるならば「地獄の門も汝らにうち勝つこと能わざらん」とも述べてあり、さらに「世の罪は熟しつつあり、今や人の子らは異邦人もイスラエルの家も、両つながら皆振り立ちて必ず悔い改めざるべからず」と強く言つてある。主はオリヴァ・カウドリとデビッド・ホイットマーとに対して、すべての人は今や悔い改めを命ぜられる、何となれば神権が回復されて罪を悔い改めるために機会が与えられるからである、と仰せになった。これらの人はすでに特別な証し人<sup>ウイタネス</sup>として召されていた。従つて世人に

警告をする義務があった。この時まで人類はバプテスマを受ける特権がなかった。それは福音の儀式を執り行う権能のある者が一人も地球上にいなかったからである。主は仰せになった、キリストは「すべての人々悔い改めて彼に來らなために、すべての人々の苦を受け」たもうているから、人の値あたいは神の前に大きい、悔い改めてイエス・キリストの御名なによってバプテスマを受け、最後まで忍ぶ者はみな救われるにちがいない、と。

この啓示の中で、すべての人々はイエス・キリストの御名をその身に引き受けなければならない、それはこの名によって「人々は最後の日に呼ばれるはずである」からである、人々が呼ばれるべきこの名を知らないなら「御父の国に於て居るべき所を得ず」ということが明らかになった。

二、十二使徒。 ジョセフ・スミスとモルモン経の見証者たちが証あかしをするために召されるはずであったばかりでなく、異邦人にもユダヤ人にも福音を宣べ伝えるために任命される十二人の証し人もそのほかにあるはずであった。三人のモルモン経の見証者は、全世界に福音を宣べ伝える責任をもつはずの十二使徒を探し出すように指名された。

三、マーテン・ハリスにたまわった啓示。 次の大きな誠命まこと（教義と聖約第十九章）は千八百三十年に三人の特別な見証者の一人であるマーテン・ハリスに下った。マーテンは彼の弱点に対して訓戒と警告とを与えられ、福音の第

一原則を教えて一生涯「喜びのおとずれ」を山の上と「あらゆる高き所」および「人々の中」に於て宣べ伝えよと命ぜられた。もしこれを行わなければ彼は必ず悲惨を招くと言われ、またさらに印刷業者といつも接触して「真理と神の言をのせたる」モルモン経を印刷するため彼の財産を頒わてと命ぜられた。

四、贖罪と「永遠」の罰の説きあかし。 この啓示の中にある最も大切な教えは贖罪の教義と「永遠」の罰という表現の説きあかしであった。

「われはアルパにしてオメガなり。主なるキリストなり。すなわちわれは始めにして終りなり。世の贖い主なり。われはわれを生みたまいし者、すなわち父のわれにかかわる御意を完成し終れるを以て、すなわちこの事を為したるを以てすべての者をわれに従わせ、この世の終りに於て、またこの世に住める人々の上に下してあらゆる人をその為したる行為とその働きとによりて裁く最後の大いなる審判の日に於て、サタンとその事業とをうち滅すすべての権能を保持す。

「されば、誠にあらゆる人は悔い改めざるべからず、然らずんば必ず苦しみを受けん。われ神は「永劫」なればなり。それがために、われはわが行うべきさばきを取消すことなくして、わが左に置かるる者には泣き悲しみ齒を咬かむなどの禍出で来らん。然はあれども、この苦しみに終りな

しとは記されずして「永劫」の苦しみとは記されたり。また「永遠」の罰とも記されたれば、これを以てその字義他の経典よりも一層明らかにして以て人の子らの胸に強く響き、全くわが名の栄光を表すなり。これを以て、この奥義を汝らに解き明さん。汝らは正にわが使徒としてこれを知るのは至当なればなり。……

「見よ、神の神たる奥義、如何に計り知るべからざるかを。そはよく見よ、われは「永劫」にして、われの手づから与える罰はすなわち「永劫」の罰なり。そはわが名は「永劫」なればなり。さればすなわち

「永遠」の罰とは「神」の罰なり。「永劫」の罰とは「神」の罰なり。

これにつづいて、イエス・キリストは「人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり」、然るにその苦しむたるや非常に激烈であつて「われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦ささかずきより吞まざしてしりごみするも可ならんことを欲したり」、それにもかかわらずイエス・キリストはそのさかずきを受け、人々もし悔い改めるならば苦しみを受けないようにその業を為し終えたもうた。しかし、もし人々が悔い改めないならば人々はイ

エス・キリストの如く苦しまなければならぬ、と述べてある。

##### 五、教会管理に関する啓示。

千八百三十年の四月、教会が組織されるすぐ前に今一つの非常に大切な啓示（教義と聖約第二十章）が教会管理について下つた。その中で教会を組織する日附は四月の六日と指定された。教会は主のみこころと命令とによって「国の法律に従い正式に組織創立」されるはずであつた。これらの命令はさきに召しを受けて使徒すなわちキリストの特別な証し人として按手聖任されたジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリとに下つた。ジョセフ・スミスは教会の第一長老に、またオリヴァ・カウドリは第二長老になるはずであり、またこの二人はイエス・キリストの恩恵（めぐみ）によつてたがいにこの職に按手聖任するはずであつた。そのほか非常に大切なことが次のように啓示された。

啓示には、墮落したある民の記録と異邦人ならびにユダヤ人に与える完全なる福音とをのせているというモルモン經の翻譯に関することが述べてある。主は天を開き、また主の聖い御業に召される人々に靈感を与えたもうて「神は昨日も今日も世々限りなく同じ神」にましますことを示し、また人々に靈感を与えていにしえの代と同じくまた今の世にも神の聖い御業に人々を召したもう。

これらの大いなる証人があるので世の人々は審きを受け

るにちがいがなく「将来この業を知る人々もみな正に同じく審かるべきなり」。これを受け入れて義しい行いを為す人々は「永遠の生命」の冠を受けるが、一方これを受け入れない人々は罪に定められるにちがいない。主がこれを語りたまひ、教会の長老たちはこれを聞いて、長老たちの証により神が天にましますことを人々が知るようにと証をする。

この神は限りなくかつ永遠であつて、とこしえよりとこしえに至り変ることなき同じ神であつて、天と地とその中にあるすべてのものを組織したもうた御方である。

この神はまた人を己が姿にかたどつて男と女につくりたまひ、眞の神なるわれを愛してわれに仕えよと命じたもうた。ところが人は神の律法を破つて墮落するに至つた。これを以て神はその生みたまえる独子を世につかわしたもうた。独子は誘惑を受けたもうたが、これを心に留めたまはず、十字架につけられ、死んで三日目に復活し、天に昇り全能の力をもつて世を治めたもう。独子を信じバプテスマを受けて終りまで恐ぶ者は、いつの世に生を受けた者もみな救われるにちがいない。いたるところの人は悔い改めてキリストを信じ、御子の御名によって御父を拜し、終りまで恐ばなくてはならない。さもなければ救われることができない。恵みによって義とされることも、恵みによって聖くされることも、勢力をつくし精神をつくし力をつくして御父を愛するすべての人々にとって眞である、と強く言つ

てあるが、また「誘惑に陥らざるよう用心して絶えず祈るべし」と教会員に警告する言葉と共に、恩恵から墮落する危険のあることが指摘してある。

六、バプテスマの行い方。 教会に下つた神の誠命としてバプテスマの行い方は次のように示されている。すなわち、

「およそ神の御前に自らひくくへり下りてバプテスマを受けんと心に願ひ、眞にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て進み出で、眞に自己の罪をすべて悔い改めたることを教会員の前に証明し、進んでイエス・キリストの御名をその身に引き受け、而して終りまでキリストに仕えんと決心し、キリストの「みたま」によりて罪の赦しを受けたることをその行いによりて眞に明らかにする者は、すべてみなバプテスマによりてキリストの教会に受け入るべし」。

神の前に自己の責任を知る年齢、すなわち八才に達するのでなければ何人も教会に受け入れられない。それは教会に受け入れられる者は悔い改めができなければならぬが、幼児には悔改めができないからである。

バプテスマは悔い改めをするすべての人々に次の方法で執り行ふ。

七、バプテスマの執行方法。 「神の召しを受け、イエス・キリストよりバプテスマを施す権能を授けられたる者は、バプテスマを受けんと出頭したる男、または女と共に

水中に下り立ち、その男または女の姓名を呼び上げて次の如く言うべし『われはイエス・キリストより権能を受けたれば、天父と御子と聖霊との御名に由りて汝にバプテスマを施す、アーメン』と。かく言いて、その男または女を水中に沈め、而して再び水より出で来るべし。

#### 八、長老、祭司、教師、執事および平会員の任務。使

徒は長老と呼ばれる。バプテスマを施し、教会の中にある他の役員を按手聖任するは彼の天職である。教会が組織された当時、およびそれから暫くの間は、ここに挙げた役員が教会の必要とするすべてであったことを説明しておかなくてはならない。教会が大きくなるに従つて、主はほかの役員の義務をそのつど啓示したもうた。長老はバプテスマを施し、会員たることを確認し、教えを宣べ、聖典を釈き、聖餐式を執り行い、彼らすなわち長老が「神の誠命と啓示に則り、聖霊の導くままに」集会の指揮をするものとする。祭司は教え釈きバプテスマを施し、聖餐式を執り行う。祭司は他の祭司、教師および執事を按手聖任することができ、聖霊を与えるための按手札を行うことはできない。祭司は大神権者が一人も居ないときに集会の指揮をすることができ、また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもひそかでも祈りを捧げ、またすべて家庭の務めにいそむように勧める義務がある。すべてこれらの義務に於て、祭司はもし必要であるならば長老を助けるべきであ

る。教師は教会を守護する者であつて、会員の中に邪曲のないよう、偽言、かげ口、また悪口のないように注意し、また教員が度々集会をすることをはかり、すべての会員にその義務をつくすようにさせるべきである。もし長老または祭司が不在のときには、教師は集会を指導すべきであつて、また長老または祭司の義務を助けることができる。教師はバプテスマを施し、教員たることを確認し、または聖餐式を執り行うことはできない。執事は教会内に在つて教師その他の役員を助けるべきであるが、バプテスマを施し、教員たることを確認し、または聖餐式を執り行うことはできない。

(三五三頁より続く)

小さな町で葬儀が行われたとき、監督は自分の前に開いてある聖書の中からヨハネ伝十四章十八節の聖句を読みました「われ汝らをのこしてみなし児とせず、汝らに來るなり」と。

私たちは眞の福音を信じていますから本當にめぐまれています。それは私たちがこの世の生活を与えられたことを心から喜んで受け入れ、またこの世にいる間の進歩に関するいろいろの責任と善い酬いとについてその意味がわかつているからであります。私たちは靈の宝の倉、しかも無尽蔵の宝の倉を与えられています。救い主のみことばは永遠に私たちの心にひびいています「もし行きて汝らのために所を備えなば、また來りて汝らわがもとに迎えん。わが居るところに汝らもまた居らんためなり」と(ヨハネ伝十四〇三、四)。

伝道本部

だより



バプテスマ

阿倍野

佐藤光彦

〃

橋之口洋一

東京中

梅津富美子

横浜

広岡義一

〃

山田公

〃

川野峯子

〃

宮崎千枝

〃

中土浩治

〃

具志堅美智子

那覇

三田村邦子

〃

水村真由美

〃

角山照雄

〃

具志堅光枝

〃

大塚玉枝

〃

佐藤紀彦

〃

山本晶子

〃

金城利恵子

〃

佐藤董子

〃

土屋芳郎

〃

中村美智子

金沢

新垣美代子

〃

佐藤達子

〃

金順鎬

・イーストゲイト

浅井晴康

〃

高橋敦子

新潟

武田幸子

〃

金永淑

〃

近藤由伎

甲府

池田明子

三ノ宮

山本小百合

〃

具斗会

〃

野々垣ヤス

〃

藤井重男

札幌

皆川昇

東京北

李東熙

〃

大木二三子

〃

浅井和男

〃

長沢刀

〃

朴圭河

〃

山口薫

〃

高谷ヨネ

〃

佐藤君男

〃

朴景子

〃

長口広美

〃

服部昌男

〃

相馬世起子

〃

朴景子

〃

板井憲友

室蘭

石井成晃

〃

鈴木健王

〃

朴駿河

〃

佐藤キク

〃

外塚美砂子

〃

横瀬弘規

〃

朴玉姫

〃



## 支部所在地

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八  
 旭川 旭川市八条五丁目  
 福岡 福岡市東葉院二ノ四〇  
 群馬 高崎市並榎町二七五  
 広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三  
 金沢 金沢市成瀬町一ノ四 野田方  
 甲府 甲府市山田町六三  
 松本 松本市沢村町一六〇四  
 室蘭 室蘭市幸町八九  
 名古屋 名古屋市中大畑町五七七 金井方  
 新潟 新潟市中大畑町五七七 金井方  
 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四  
 岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八  
 岡山 岡山市弓野町六一  
 小樽 小樽市富岡町一ノ三五  
 三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五  
 札幌 札幌市北二条西三四丁目  
 札幌 札幌市光禪寺通り二八  
 東京中央 東京都渋谷区八幡通一ノ三四  
 東京北 東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八  
 東京南 東京都大田区南千束町二四九  
 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺三六八  
 山形 山形市八日町五八〇  
 柳井 山口県柳井市今市三九一  
 横浜 横浜市港北区篠原町二九  
 那覇 沖縄宜野湾村野嵩区三三八  
 那覇 沖縄那覇市松尾区一三九

## 編集後記

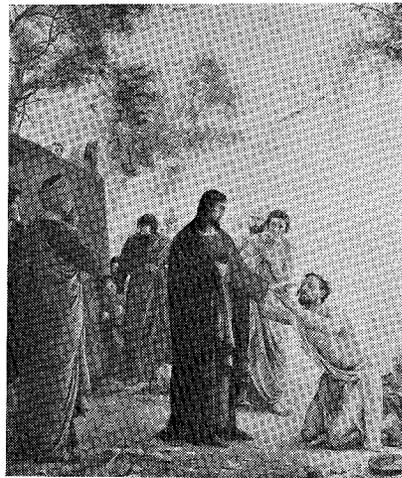
▼もう田植もはじまる季節になってきました。が、編集部もようやく伝道本部から二長町の事務所に移転を終えて、「さてこれから」といったところです。しかしまだまだ整理に追われて、本格的な活動に入っていませんので、いろいろの点で御迷惑をおかけしますことをおわびいたします。

▼うちあけ話しですけれど、今月号は原稿集めに苦労しました。大会の予告記事等、なかなか集りが悪く、また事務所を変えた点などで、郵送されてくるものに手違があったりして、今月号は発送が少しくれます。

▼ヒンクレイ長老の特集は、時間切れでオジャンになってしまいました。予告などを出しておいてほんとうに、はずかしい思いです。

▼編集部は現在直接各支部に発送しています。その発送する数字は伝道本部からくるものです。とかく販売などの問題になると金銭がからみ「数」だけの問題になりやすいのですが、それでも、もくもくと努力し続けてくださるかがたのうえに主の豊かなお力を願わずにはられません。

▼本誌MIAリーダーの筆者佐藤襄二兄弟と田中榮子姉妹がめでたく六月二十九日に結婚式を上げられます。オメデトウ。



6月号表紙—イエス・キリスト  
めしいをいやす

月刊「聖徒の道」第五巻第六号

一九六一年六月一日発行

実価 一カ年 六〇〇円

半年 三〇〇円

一部 五十円

編集兼  
発行人  
ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

# 内 案 書 図

教義と聖約	高価なる真珠	上質革製合本	一一〇〇円
モルモン経	教義と聖約	合本	三〇〇円
高価なる真珠	モルモン経	(新訳)	二〇〇円
信仰簡条の研究	モルモンとは		一〇〇円
完成への道	初等協会教科書		一五〇円
総合聖句の手引	日本系図探究要覧		一〇〇円
古代アメリカの生活	旧約聖書物語		一五〇円
家督権の祝福	扶助協会手引		五〇円

日曜学校用	宗教と生活 II	一五〇円
よきおとづれ	聖書物語	一五〇円
福音の実践	聖典中の指導者	一五〇円
M I A 用	役員と指導書の手引	一〇〇円
モルモン経研究ガイド	M I A 手引(付録)	一〇〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集	演説が上手になる法	七五円
社交ダンス必携	新しいフォークダンス	一六〇円
讃美歌及び歌集	末日聖徒讃美歌(新版)	四〇〇円
子等は歌う	レクリエーション歌集	四〇〇円

註文は各支部長へよ